

# 高知県埋蔵文化財センター年報

第 17 号

2007 年度

財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター



# 高知県埋蔵文化財センター年報

第 17 号

2007 年度

財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター



## 序

平成19年度は指定管理者として2年目を迎え、発掘調査事業の成果をいち早く公表することにより県民の方に埋蔵文化財に触れ合う機会を昨年度以上に提供してまいりました。埋蔵文化財センターの運営は、発掘調査事業と広報普及事業が両輪となっています。

発掘調査事業では、昭和61年度から行ってきた中村河川国道工事事務所の一連の発掘調査事業が一旦終了したものの、平成16年度から東部自動車道建設や波介川河口導流事業など新たな大規模開発事業が着手されるようになり、一時のような規模ではないにしても一定規模の発掘調査事業が予定され、二回目のピークを迎えようとしています。今後の社会情勢等によっても変動することは予想されますが、開発事業の性格から長期的な発掘調査が期待されます。このような状況下で、調査員の高齢化などに伴う調査員不足が表面化しつつあり、調査体制にも深刻な打撃を与えています。今後も変わらぬ調査体制を組むことができるかが埋蔵文化財センターの存続にも大きく関わっています。

広報普及事業では、新たに発掘調査報告会、古代ものづくり体験教室、先生のための考古学教室、特別展を開催してより充実した内容とし、講座は月に一回を目標に取り組んできました。また、年間行事カレンダーの作成、ホームページのリニューアルなど昨年度に増して広報に努め、開館して7年目で初めて入館者が2,000人を突破しました。出前考古学教室も例年以上の申し込みがあり、県内の学校に年間行事として定着した感があります。出前考古学教室を含め広報普及事業を今後より一層充実していくには学校とのさらなる連携に取り組む必要があります。

これからも埋蔵文化財センターは発掘調査事業と広報普及事業を両輪として、充実した発掘調査を行い目に見える成果を上げることにより内容のある充実した講座や展示会を開催できるよう努めてまいります。そして、県民文化の振興に資する施設として、心のやすらぎを与えられ得る場となって行きたいと思っております。

今後とも、皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年9月

財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター  
所長 小笠原 孝夫

## 例言

1. 本書は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成19(2007)年度事業の概要をまとめたものである。
2. 「IV 各遺跡の発掘調査概要」と「Ⅲの2の(4) 出前考古学教室」は担当が中心となって執筆を行い、筒井が取りまとめ編集し、廣田が補助した。それ以外は廣田が執筆、編集した。
3. 「IV 各遺跡の発掘調査概要」に掲載した遺跡位置図はS=1/25,000の地形図を使用している。
4. 本書作成データについては、巻末の奥付上段に記している。

## 本文目次

I 財団法人高知県文化財団	1
1. 財団法人高知県文化財団の概要	1
2. 財団法人高知県文化財団の組織	1
II 埋蔵文化財センター	3
1. 埋蔵文化財センターの概要	3
2. 埋蔵文化財センターの組織	3
3. 埋蔵文化財センターの施設	5
4. 利用方法等について	6
III 年間事業の概要	7
1. 発掘調査事業	7
2. 指定管理事業	16
3. その他の事業	31
IV 各遺跡の発掘調査概要	33
1. 本発掘調査	33
2. 試掘調査	48
V 条例・規則等	51
1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例	51
2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する規則	55
3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定	56

## 表目次

表1 高知県文化財団役員一覧	2	表10 平成19年度発掘調査報告会	19
表2 高知県埋蔵文化財センター職員一覧	4	表11 平成19年度物品(県有物)貸出し一覧	21
表3 発掘調査推移表	7	表12 平成19年度現地説明会一覧	22
表4 平成19年度受託発掘調査事業(本発掘調査)一覧表	8	表13 平成19年度施設等見学者一覧	22
表5 平成19年度受託発掘調査事業(試掘調査)一覧表	10	表14 平成11～19年度出前考古学教室実績一覧	23
表6 平成19年度受託発掘調査事業(整理作業)一覧表	12	表15 平成19年度出前考古学教室前期実績一覧	25
表7 平成19年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧表	14	表16 平成19年度出前考古学教室後期実績一覧	26
表8 平成19年度入館者数	16	表17 平成19年度埋蔵文化財センター新人及び市町村職員研修	28
表9 平成19年度考古学講座	18	表18 平成19年度研修参加者	28

目次

表19	平成19年度職員専門研修	29	表22	平成19年度講師等派遣依頼一覧	30
表20	平成19年度独立行政法人奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者研修課程	29	表23	平成19年度会議等参加者一覧	31
表21	平成19年度情報交換会	29	表24	「平成19年度発掘された日本列島2007」集荷・展示・返却日程表	32

図目次

図1	高知県文化財団組織図	2	図5	受託発掘調査事業推移グラフ	7
図2	高知県埋蔵文化財センター組織図	3	図6	平成19年度受託事業発掘調査位置図	9
図3	高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)	5	図7	平成19年度受託事業試掘調査位置図	11
図4	高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)	6	図8	平成19年度受託事業整理作業位置図	13

写真目次

写真1	発掘へんろポスター	16	写真26	土師器出土状態(古墳時代)	36
写真2	発掘へんろ展示報告会	17	写真27	文様の描かれた瓦器椀	36
写真3	企画展ポスター	17	写真28	I区西出土緑釉陶器椀	36
写真4	企画展ポスター	17	写真29	I区SD3下層遺物出土状態	37
写真5	特別展記念講演会	18	写真30	II区SK4遺物出土状態	37
写真6	考古学講座	18	写真31	遺構検出状態	38
写真7	発掘調査報告会	19	写真32	建物跡完掘状態	38
写真8	先生のための考古学教室	19	写真33	調査区空中写真	39
写真9	親子考古学教室	19	写真34	VII区TR2SD4遺構検出状態	40
写真10	古代ものづくり体験教室	19	写真35	VIII区遺構完掘状態	40
写真11	発掘現場見学会	20	写真36	発掘作業風景	41
写真12	ホームページ	20	写真37	土層断面	41
写真13	報告書PDFトップページ	20	写真38	無刻突帯文土器(深鉢)	41
写真14	土器作り	23	写真39	小銃掩体と交通壕の完掘状態	42
写真15	授業風景	24	写真40	三ノ丸南面の石垣盛土断面	43
写真16	火起こし	24	写真41	南面盛土で検出されたピット	43
写真17	勾玉づくり	26	写真42	鉄門石垣に残る矢穴痕	44
写真18	展示解説	27	写真43	鉄門石垣の根石(チャート)	44
写真19	土器焼き	27	写真44	修築後の三ノ丸南面石垣全景	44
写真20	職員専門研修	29	写真45	柵列と考えられる柱穴群(写真手前)	45
写真21	II区完掘状態	33	写真46	中世から近世にかけての溝跡	45
写真22	I区下駄出土状態	33	写真47	I区P38遺物出土状態	46
写真23	VII区遺構完掘状態	34	写真48	I区ST1完掘状態	46
写真24	VIII区検出竪穴住居跡	34	写真49	SD-1完掘状態	47
写真25	城ヶ谷山遺跡全景	35	写真50	調査区完掘状態	47



# I 財団法人高知県文化財団

## 1. 財団法人高知県文化財団の概要

### (1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大など社会経済情勢の変化を背景に、芸術文化活動に直接参加し、或いは歴史的・文化的遺産に自ら親しむことを通じて、生活の中に潤いとやすらぎを求めるといった県民の文化的ニーズがかつてなく高まってきている。

このような時代の趨勢の中で、これからの文化行政は、より県民の期待に応えるものでなければならないが、特に、その推進に当たっては、単に行政のみが主導していくのではなく、行政と民間がそれぞれの叡知、力を出し合い、一致協力していくことが何よりも必要である。

高知県文化財団は、こういった使命と目的のもとに、県民文化の振興に資する芸術文化関連諸事業を、県、市町村、民間の力を幅広く結集して、総合的・体系的に運営実施すると共に、県民の文化活動の拠点となる各種の芸術文化施設についてもその特性を生かし、公共性を確保しつつ、県民サービスの向上につながる柔軟で弾力的な管理運営を行うなど、今後の本県の芸術文化活動の推進母体としての役割を担おうとするものである。

### (2) 事業内容

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化事業
- ② 教育、学術及び文化の国際交流事業
- ③ 歴史民俗資料館、美術館等芸術文化施設の管理運営事業
- ④ 埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ⑤ その他文化振興に関する事業

### (3) 設立年月日

平成2年3月28日

### (4) 事務局所在地

高知県高知市高須353-2  
高知県立美術館内

## 2. 財団法人高知県文化財団の組織

### (1) 財団組織

#### ① 理事会役員

理事長1名 副理事長1名 理事8名 監事2名

#### ② 事務局

総務部長(専務理事) - 総務課長(美術館副館長) - 事務職員

2. 財団法人高知県文化財団の組織

③ 財団組織図

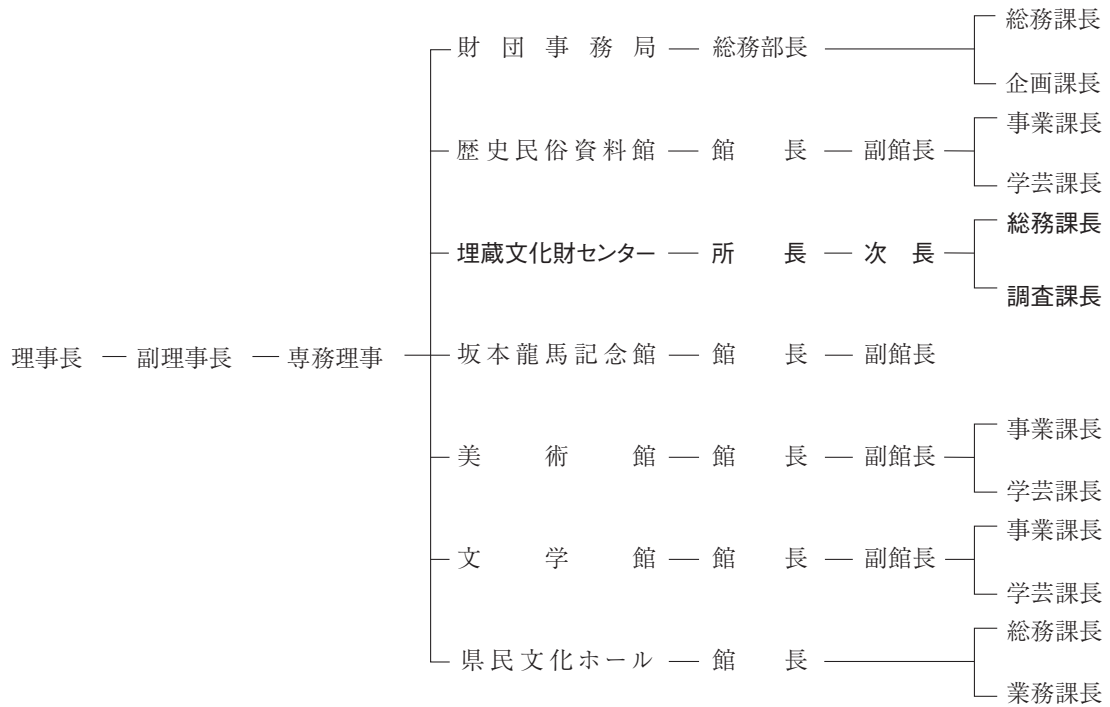


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

表1 高知県文化財団役員一覧

役職名	氏名	備考
理事長	島田 京子	
副理事長	青木 章泰	(株)四国銀行代表取締役頭取
理事	吉岡 和夫	県文化環境部長
〃	岡崎 誠也	県市長会会長
〃	明神 健夫	県町村会会長
〃	藤戸 謙吾	(株)高知新聞社代表取締役社長
〃	竹内 克之	高知商工会議所副会頭
〃	伊野部 重晃	(株)高知銀行代表取締役頭取
〃	山本 眞壽	染織家
〃	藤田 直義	高知県立美術館館長
監事	高橋 重一	(株)四国銀行お客様サポート部長
〃	廣光 良昭	税理士

平成20年3月31日現在

## Ⅱ 埋蔵文化財センター

### 1. 埋蔵文化財センターの概要

#### (1) 設立趣旨

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

#### (2) 事業内容

##### ① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

##### ② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

##### ③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

##### ④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

##### ⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

#### (3) 設立年月日

平成3年4月1日

#### (4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原南泉1437-1

### 2. 埋蔵文化財センターの組織

#### (1) 埋蔵文化財センターの組織図

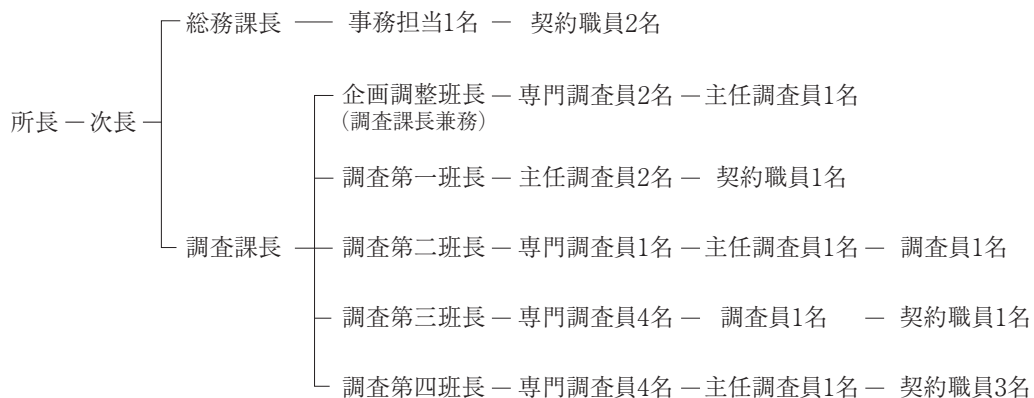


図2 高知県埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表2 高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属	
所 長		汲田 幸一	県教育委員会参事	
次 長		森田 尚宏	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長	戸梶 友昭	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	主 任	谷 真理子	(財)高知スポーツ振興財団主任	
	契約職員	榊 琴美	(財)高知県文化財団	
	〃	西岡 公子	〃	
調査課	調査課長	廣田 佳久	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	企画調整班	企画調整班長(兼)	廣田 佳久	〃
		専 門 調 査 員	舩田 龍也	県教育委員会文化財課社会教育主事
		〃	鍵山 真一	〃
		主任調査員	筒井 三菜	(財)高知県文化財団
	調査第一班	調査第一班長	山本 哲也	県教育委員会文化財課主任(4種)
		主任調査員	坂本 幸繁	県教育委員会文化財課社会教育主事
		〃	久家 隆芳	(財)高知県文化財団
		契 約 職 員	松本 安紀彦	〃
	調査第二班	調査第二班長	吉成 承三	〃
		専 門 調 査 員	森 信輔	県教育委員会文化財課社会教育主事
		主任調査員	徳平 涼子	(財)高知県文化財団
		調 査 員	中石 忍	県教育委員会文化財課社会教育主事
	調査第三班	調査第三班長	出原 恵三	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	前田 光雄	県教育委員会文化財課主任
		〃	野田 秀夫	県教育委員会文化財課社会教育主事
		〃	山田 耕造	〃
		〃	坂本 憲昭	(財)高知県文化財団
		調 査 員	柴岡 理恵	県教育委員会文化財課社会教育主事
		契 約 職 員	西川 雅美	〃
	調査第四班	調査第四班長	藤方 正治	〃
		専 門 調 査 員	安岡 猛	県教育委員会文化財課社会教育主事
		〃	井上 昌紀	〃
		〃	武森 清幸	〃
		〃	小川 博敏	〃
		主任調査員	小野 由香	(財)高知県文化財団
		契 約 職 員	島内 洋二	〃
		〃	奥宮 千恵子	〃
県教育委員会文化財課へ派遣		松吉 佐和	〃	
		下村 裕	〃	

### 3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地：高知県南国市篠原南泉1437-1

敷地面積：4,203㎡

建物構造：本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫：重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積：2,073.65㎡

(本館：617.02㎡ 北館：263.12㎡ 南館：574.11㎡ 収蔵庫：619.40㎡)

延床面積：4,073.54㎡

(本館：1,037.11㎡ 北館：518.40㎡ 南館：1,045.92㎡ 収蔵庫：1,472.11㎡)

事業費：650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

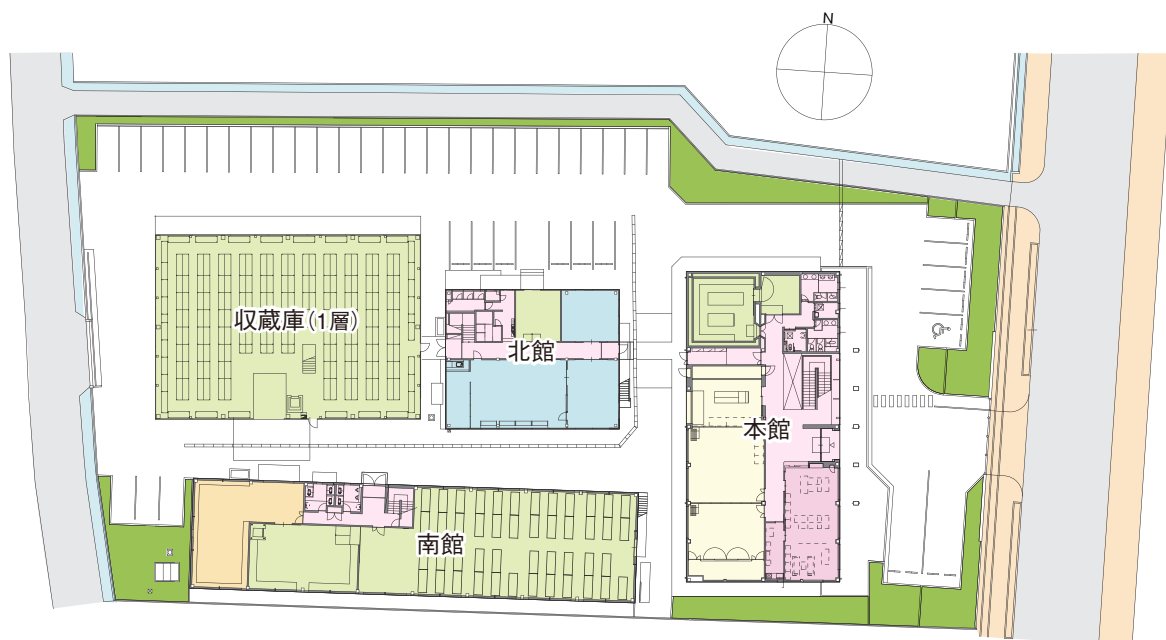


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

### 3. 埋蔵文化財センターの施設

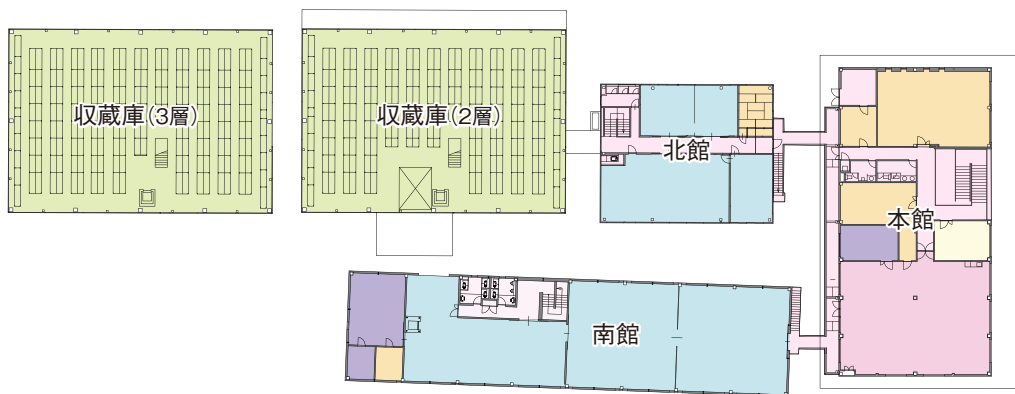


図4 高知県立埋蔵文化財センター 2F 平面図(S=1/800)

### 4. 利用方法等について

#### (1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

#### (2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

#### (3) 休館日

土・日曜日、祝祭日、12月29日～1月3日

(8・9月は土・日曜日、祝祭日も開館、10～1月は土曜日のみ開館)

#### (4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所 〒783-0006 高知県南国市篠原南泉1437-1

Tel (088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax (088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

WebDB <http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>

### Ⅲ 年間事業の概要

#### 1. 発掘調査事業

平成19年度の発掘調査の経費は557,551,455円(平成18年度553,266,900円)で、その主体は国土交通省関係の事業であり、全体の約78%(434,616,000円)を占める。土佐国道事務所の高知東部自動車道、高知河川国道事務所の波介川河口導流事業、そして中村河川国道事務所の中村宿毛高規格道路がそれに当たる。いずれも四国地方整備局から業務委託を受けた高知県教育委員会からの再委託事業である。国以外の事業は高知県からの委託事業で、経費は知事部局からが98,648,955円(約18%)、教育委員会からが24,286,500円(約4%)であった。

土佐国道事務所関係では、東部自動車道の調査が平成15年度の試掘調査に始まり、平成16年度からは本格的に発掘調査が始動している。今後南国市田村遺跡群や香南市東野土居遺跡を始めとした密度の高い広範囲の遺跡の調査が予定されており、しばらくの間調査が継続するものとみられる。同じく土佐国道事務所の高知西バイパス関係の発掘調査に着手した。工事予定区域内にはいの町バーガ森北斜面遺跡があり、今後広範囲な調査が想定される。昭和57年度から断続的に実施されてきた日本道路公団の四国横断自動車道関係の事業が新直轄方式となり、土佐国道事務所がそれを引き継ぎ、残っていた須崎から四万十町(窪川)間の整理業務を実施した。今後計画されている四万十町(窪川)以西については中村河川国道事務所に所管が移ることになる。

高知河川国道事務所関係では、土佐市バイパスの発掘調

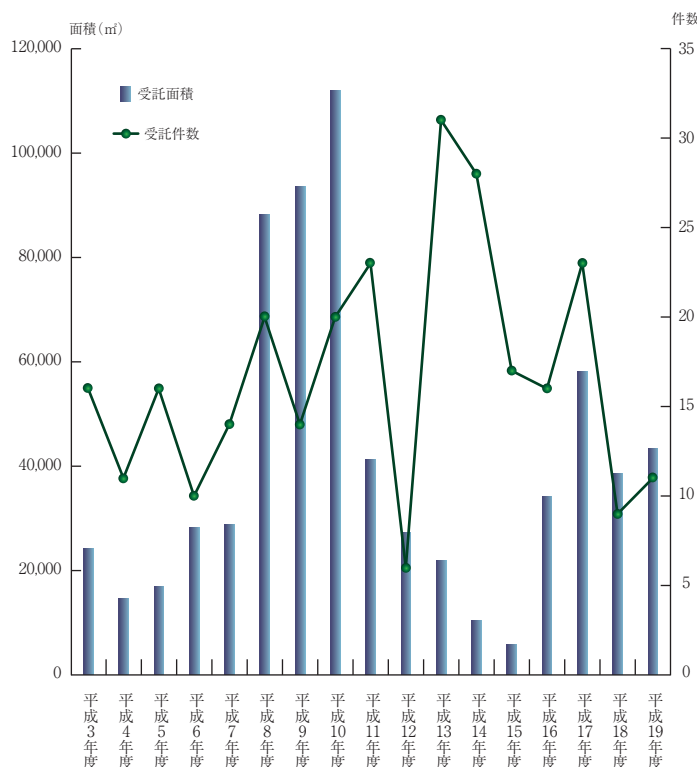


図5 受託発掘調査事業推移グラフ

表3 発掘調査推移表

年度	受託件数	受託面積
平成3年度	16件	24,310㎡
平成4年度	11件	14,663㎡
平成5年度	16件	17,010㎡
平成6年度	10件	28,233㎡
平成7年度	14件	28,856㎡
平成8年度	20件	88,178㎡
平成9年度	14件	93,675㎡
平成10年度	20件	111,990㎡
平成11年度	23件	41,320㎡
平成12年度	6件	27,314㎡
平成13年度	31件	21,853㎡
平成14年度	28件	10,488㎡
平成15年度	17件	5,912㎡
平成16年度	16件	34,285㎡
平成17年度	23件	58,084㎡
平成18年度	9件	38,519㎡
平成19年度	11件	41,662㎡
合計	285件	686,352㎡



## 1. 発掘調査事業

査が平成18年度で一先ず終了し<sup>(1)</sup>、平成16年度から始まった波介川河口導流事業に伴う発掘調査を継続している。計画では平成20年度まで発掘調査を実施し、平成23年度まで整理業務を行う予定になっている。

中村河川国道事務所関係では、昭和61年度から始まった後川・中筋川河川改修工事、引き続き行われた中村宿毛高規格道路の発掘調査も平成19年度に行った整理業務をもって一先ず終了した。今後は、平田から宿毛間の調査が予定されている。

次に、国以外の事業についてみると、知事部局関係では、高知土木事務所と高知中央東土木事務所の事業があり、高知東インター線、国道195号線(あけぼの道路)および都市計画道路高知山田線の3路線関係の発掘調査を実施した。高知東インター線の介良野遺跡は平成18年度からの継続事業であり、平成19年度が最終年度である。国道195号線(あけぼの道路)では高知土木事務所関係のミトロ遺跡と高知中央東土木事務所関係の土島田遺跡がある。前者は平成17年度の整理業務、後者は平成18年度の試掘調査結果を受けて実施した発掘調査で、平成20年度も引き続き発掘調査を実施している。都市計画道路高知山田線では隣接する2遺跡(伏原遺跡とひびのきサウジ遺跡)の発掘調査を行った。伏原遺跡は平成18年度からの継続事業で、平成20年度も引き続き調査を実施している。ひびのきサウジ遺跡は伏原遺跡の東に隣接する遺跡で、整理業務が平成21年度まで計画されている。

県教育委員会関係では、高知城跡三ノ丸石垣改修と山田養護学校寄宿舎改築に伴うもので、前者

表4 平成19年度受託発掘調査事業(本発掘調査)一覧表

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積 (㎡)	調査期間	事業者	原因	委託者
1	徳王子広本遺跡	07-1KH	香南市香我美町 徳王子	弥生 ～ 中世	集落跡	9,740	4/26 ～ 3/12	国交省	道路	県教委
2	西野々遺跡	07-2NN	南国市 大桶字竹中	弥生 ～ 近世	集落跡 官衙跡	717	4/16 ～ 6/5	国交省	道路	県教委
3	徳王子前島遺跡	07-16KTM	香南市香我美町 徳王子	中世	その他	1,549	1/7 ～ 3/13	国交省	道路	県教委
4	城ヶ谷山遺跡	07-3IS	吾川郡いの町	弥生 ～ 近世	集落跡	1,207	4/25 ～ 8/31	国交省	道路	県教委
5	上ノ村遺跡	07-8TK	土佐市新居	縄文 ～ 近代	集落跡	16,730	4/10 ～ 3/14	国交省	河川	県教委
6	ひびのきサウジ 遺跡	07-4-7YH	香美市 土佐山田町楠目	弥生 ～ 近代	集落跡	1,132	5/1 ～ 11/16	高知県	道路	高知県
7	土島田遺跡	07-5NS	南国市小籠	弥生 ～ 近世	集落跡 官衙跡	7,053	6/5 ～ 12/7	高知県	道路	高知県
8	伏原遺跡	07-15KF	香美市 土佐山田町楠目	弥生 ～ 近世	集落跡	1,476	11/5 ～ 3/31	高知県	道路	高知県
9	原遺跡	07-14KYH	香美市 土佐山田町山田	弥生 ～ 近世	集落跡	435	12/17 ～ 2/15	高知県	建物	高知県
合計						40,039				



は平成16年度からの継続事業で平成21年度に取りまとめを行う予定である。後者は平成19年度に着手した事業で、現状では平成21年度が最終年度となる。

以上のように、平成19年度で終了した事業もあるものの、継続事業が大半で、新たに着手した事業の内高知西バイパス、高知中央東土木事務所の国道195号線(あけほの道路)などは規模も大きく、全体的にみて調査員不足が生じている。全国的には発掘調査が減少しているものの、当県にあっては今後少なくとも10年間は一定規模の発掘調査が予定されており、調査員の高齢化等に伴う専門調査員の不足が懸念される。

埋蔵文化財センターの体制(図2・表2)は基本的に昨年度と同じで、平成19年度は3名の退職と3名の転出があり、6名の転入があった。また、プロパー職員の退職に伴って、期限付き契約職員2名を採用した。組織の構成は所長、次長の下に総務課と調査課を置き、総務課は総務課長1名、主任1名、契約職員2名、調査課は調査課長(企画調整班長を兼務)の下に、指定管理事業を行う企画調整班(平成18年度に新設)、発掘調査事業を行う調査第一班から調査第四班を置く。調査課の内訳は調査課長兼企画調整班長1名、調査班長4名、調査員20名(専門調査員11名、主任調査員5名、調査員2名、契約職員2名)、契約職員3名である。この内、専門職員は13名、派遣教員12名であり、実質的に発掘調査に従事する専門職員は11名、派遣教員は10名であった。また、高知県教育委員会に職員1名を派遣している。

職員の派遣元は、高知県教育委員会1名、同文化財課18名(内教職籍12名)、(財)高知スポーツ振興財団1名である

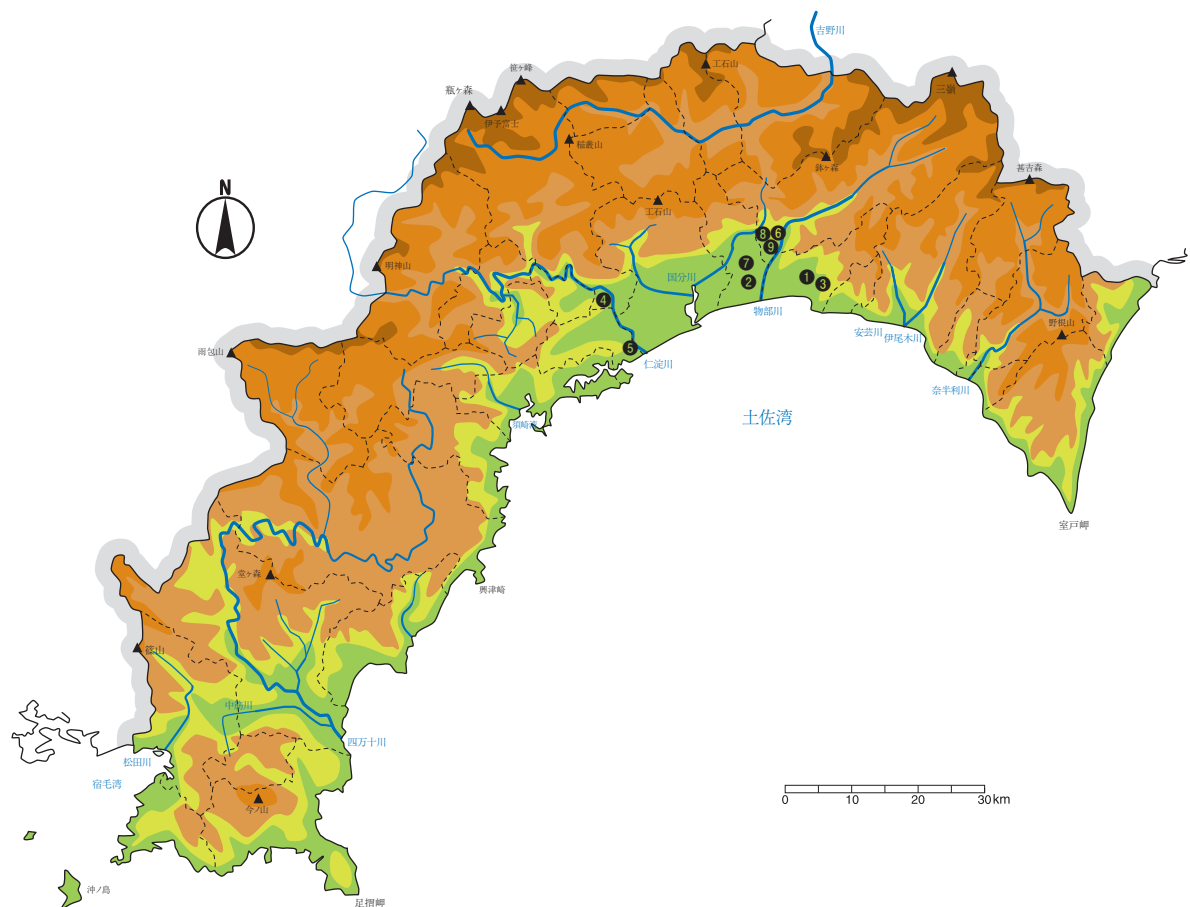


図6 平成19年度受託事業発掘調査位置図(番号は受託発掘調査事業(本発掘調査)一覧表の番号と一致)

## 1. 発掘調査事業

調査課の業務分担は主として、企画調整班が物品(県有物)等の貸出などの情報公開、企画展等の公開展示、各種講座の公開講座、出前考古学教室など指定管理業務、調査第一班が県関係(県土木事務所と山田養護学校寄宿舎改築)、調査第二班が四国横断自動車道関係(西山城跡)と西バイパスおよび県関係(高知城跡三ノ丸)、調査第三班が高知河川国道事務所と中村河川国道事務所関係、調査第四班が土佐国道事務所関係と四国横断自動車道関係(坪ノ内遺跡)に関する事業等であった。

### (1) 受託事業

平成19年度の受託事業件数は11件で(国関係事業については事務所単位での契約となり、実際の発掘調査件数とは異なる)、この内訳は、発掘調査が7件、試掘調査が7件、試掘調査に引き続き発掘調査を実施したものが1件、整理作業が10件であった。

調査面積は昨年度の約8%増の41,662㎡であり、内訳は国関係が31,026㎡(約75%)、県土木関係が9,741㎡(約23%)、県教育委員会関係が895㎡(約2%)であった。調査面積については、現体制で調査できる限度が4～5万㎡であることから今後もほぼ同水準で推移するものと考えられる。

受託先は高知県教育委員会と高知県で、前述のとおり高知県教育委員会からの受託事業は国関係の再委託と高知城跡三ノ丸石垣改修に伴う調査と山田養護学校寄宿舎改築に伴う原遺跡の試掘調査と発掘調査であった。高知県からの受託事業は高知土木事務所の高知東インター線改築に伴う介良

表5 平成19年度受託発掘調査事業(試掘調査)一覧表

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積 (㎡)	調査期間	事業者	原因	委託者
1	伊達野地区	07-10NIT	南国市伊達野	近世	散布地	118	10/14 ～ 10/25	国交省	道路	県教委
2	関地区	07-11NS	南国市関	古代	集落跡	27	10/29 ～ 10/30	国交省	道路	県教委
3	長谷地区 (芸西)	07-12GN	芸西村	中世	散布地	300	11/1 ～ 11/13	国交省	道路	県教委
4	徳王子前島地区	07-13KTM	香南市 香我美町徳王子	弥生 ～ 近世	集落跡	161	11/14 ～ 11/30	国交省	道路	県教委
5	鎌田地区	-	吾川郡いの町鎌田	古代 ～ 中世	散布地	252	8/23 ～ 9/5	国交省	道路	県教委
6	是友地区	-	吾川郡いの町是友	弥生	散布地	225	10/15 ～ 10/24	国交省	道路	県教委
7	ひびのきサウジ 遺跡	07-6YH	香美市 土佐山田町楠目	弥生 ～ 近代	集落跡	80	7/5 ～ 8/17	高知県	建物	高知県
8	高知城跡三ノ丸	07-9KK	高知市丸ノ内	中世 ～ 近世	城郭	440	10/3 ～ 2/15	高知県	石垣	高知県
9	原遺跡	07-14KYH	香美市 土佐山田町山田	弥生 ～ 近世	集落跡	20	12/17 ～ 2/15	高知県	建物	高知県
合計						1,623				

野遺跡の整理作業と国道195号線(あけぼの道路)改築工事に伴うミトロ遺跡の整理作業の2件, 高知中央土木事務所の国道195号線(あけぼの道路)改築工事に伴う土島田遺跡の発掘調査と都市計画道路高知山田線改築工事に伴って平成18年度に発掘調査した伏原遺跡(伏原Ⅰ)の整理作業, 伏原Ⅰの東側(伏原Ⅱ)の発掘調査及び伏原遺跡の東側に所在するひびのきサウジ遺跡の発掘調査の4件であった。

次に, 各事業について具体的にみてみることにする。まず, 高知県教育委員会から受託した国関係では, 土佐国道事務所関係の東部自動車道建設(高知南国道路と南国安芸道路に分かれる)に伴う発掘調査が平成16年度から継続されており, 高知南国道路関係では平成19年度は西野々遺跡の残りの調査と報告書作成<sup>(2)</sup>, 伊達野地区の試掘調査, 関地区の試掘調査を行い, 関地区から新たに遺跡が発見され, 平成20年度に調査を実施している。南国安芸道路関係では, 平成16年度に調査した口槇ヶ谷遺跡の報告書作成, 徳王子広本遺跡の発掘調査, 徳王子前島地区の試掘調査と遺跡が確認された部分(徳王子前島遺跡)の発掘調査, 長谷地区(芸西)の試掘調査を行った。高知西バイパス建設に伴う発掘調査が平成19年度から本格化し, 平成18年度に試掘調査で確認した城ヶ谷山遺跡の発掘調査と鎌田地区と是友地区の試掘調査を行い, 鎌田地区から貢山城跡と鎌田遺跡が発見されている。この2遺跡については平成20年度以降の調査が予定されている。四国横断自動車道関係では平成16年度発掘調査を行った坪ノ内遺跡と西山城跡の報告書作成を行い, 前述のとおり, 須崎から窪川間までの調査が完了した。高知河川国道事務所関係では, 波介川河口導流事業<sup>(3)</sup>に伴って平成16年度から

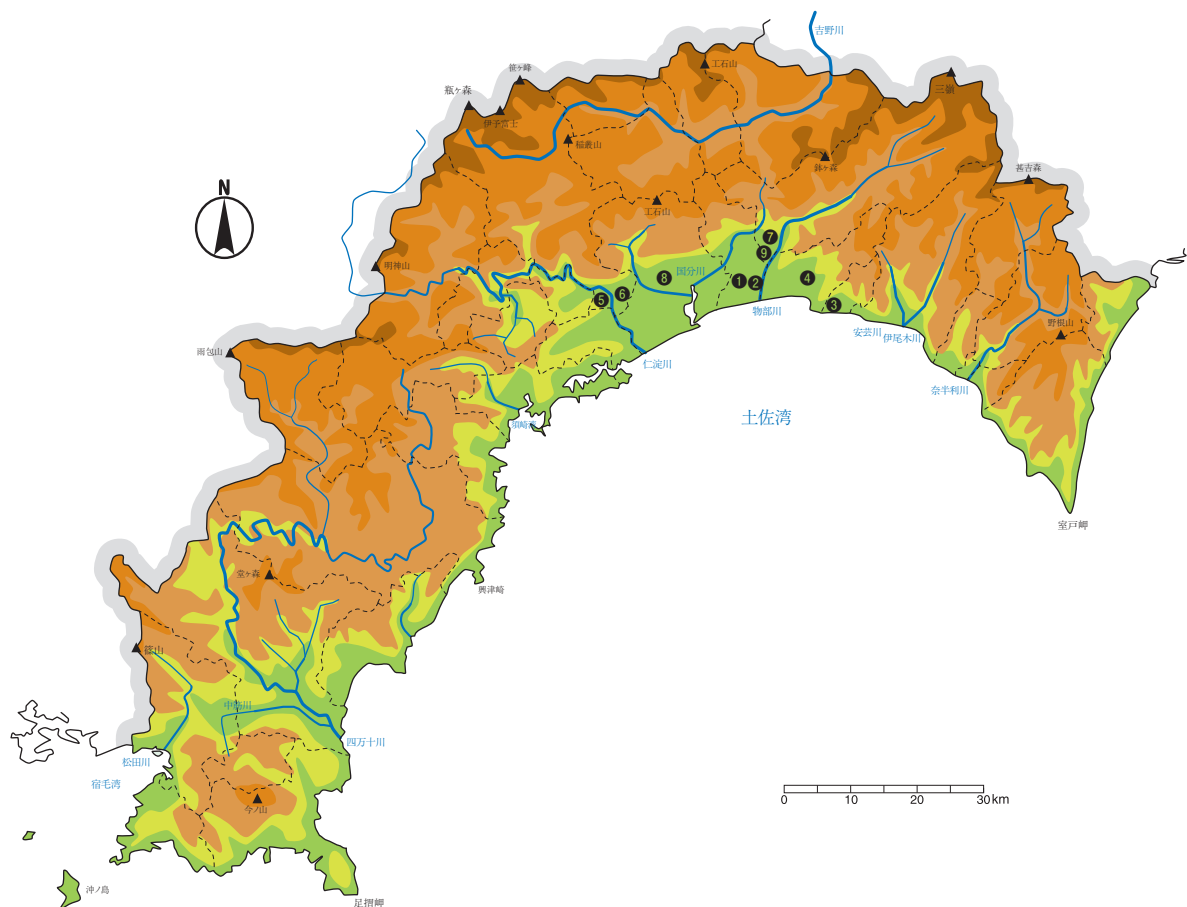


図7 平成19年度受託事業試掘調査位置図(番号は受託発掘調査事業(試掘調査)一覧表の番号と一致)

## 1. 発掘調査事業

継続して発掘調査されている。平成19年度は平成16年度に調査した北ノ丸遺跡の報告書作成と平成17年度から開始した上ノ村遺跡の調査を引き続き行った。中村河川国道事務所関係では中村宿毛道路建設に伴って平成17年度に調査を実施した坂本遺跡の整理作業を平成18年度に引き続き行い報告書を刊行した。これによって平田から宿毛間の調査が完了した。

国関係以外では、平成16年度からの継続事業である高知城跡三ノ丸石垣改修に伴う確認調査と整理作業があり、三ノ丸の石垣改修事業は平成21年度が最終年度で、報告書の刊行が予定されている。山田養護学校寄宿舎改築(男子寮)に伴う原遺跡の発掘調査は平成18年度の試掘調査の結果を受けて実施したものであるが、既存の建物の布基礎で破壊されている部分も少なくなく、以前の調査で確認された住居跡の検出には至らなかった。平成20年度以降に女子寮部分と整理作業が残っている。

県土木関係では、介良野遺跡とミトロ遺跡の報告書作成を行い、新たに土島田遺跡の発掘調査を開始した。土島田遺跡は長岡台地南西端部に位置する遺跡で調査予定面積が約23,000㎡と広く、平成19年度は7,053㎡を調査し、平成20年度は2パーティーで引き続き発掘調査を実施している。伏原遺跡については、平成18年度分の基礎整理作業とそれ以降の発掘調査を開始し、引き続き平成20年度も発掘調査を行っている。平成18年度からの調査によって弥生時代後期と古墳時代後期を中心とした集落の様相が明らかになりつつある。並行して調査を実施したひびのきサウジ遺跡もほぼ同時期の集落跡であることが判明し、一連の遺跡として捉えることも可能である。いずれの調査も平

表6 平成19年度受託発掘調査事業(整理作業)一覧表

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託先
1	西野々遺跡	05-2NN	南国市大埴字竹中	弥生 ～ 近世	集落跡 官衙跡	4/1 ～ 3/31	国交省	道路	県教委
2	口槇ヶ谷遺跡	05-1YK	香南市 夜須町出口・千切	弥生 ～ 近世	集落跡	4/1 ～ 3/31	国交省	道路	県教委
3	坪ノ内遺跡	05-6NTU	高岡郡中土佐町	弥生 ～ 中世	集落跡	4/1 ～ 3/31	国交省	道路	県教委
4	西山城跡	05-7NN	高岡郡中土佐町	中世	城跡	4/1 ～ 3/31	国交省	道路	県教委
5	北ノ丸遺跡	07-8TK	土佐市新居	古墳	祭祀跡	4/1 ～ 3/31	国交省	河川	県教委
6	坂本遺跡	05-3NSA	四万十市坂本	中世	寺院跡	4/1 ～ 3/31	国交省	道路	県教委
7	介良野遺跡	06-3KIK	高知市介良甲	弥生 ・ 古墳	集落跡	4/11 ～ 12/20	高知県	道路	高知県
8	ミトロ遺跡	05-9KNM	高知市布師田	弥生	集落跡	8/3 ～ 12/20	高知県	道路	高知県
9	伏原遺跡	06-10KF	香美市 土佐山田町楠目	弥生 ・ 古墳	集落跡	5/1 ～ 2/29	高知県	道路	高知県
10	高知城跡三ノ丸	07-9KK	高知市丸ノ内	中世 ～ 近在	城郭	10/3 ～ 2/15	高知県	石垣	高知県

成21年度に報告書を刊行する予定である。

以上、受託事業についてみてきたが、今後も発掘調査が一定予測され、平成21年度以降整理作業の比重が増す中で、専門調査員不足が今後ますます懸念される。

## (2) 発掘調査報告書

平成19年度に刊行した発掘調査報告書は表7のとおり第99集から第106集までの8冊で、埋蔵文化財センター設立以来17年で、100集の刊行に至った。平成15年度以来の纏まった数の報告書を刊行することとなった。これは、平成16年度から始まった第2次大規模開発とでも言える東部自動車道建設や波介川河口導流などの事業に伴う遺跡の発掘調査が順次終了し、計画的に整理作業が進捗している証であろう。ただし、国土交通省、中でも道路関係について報告書の印刷部数の問題が再浮上してきており、今後紆余曲折が予想される。また、経費の約50%以上を占める国土交通省の道路開発の行方、換言すれば道路特定財源の成り行きによっては、報告書刊行に止まらず埋蔵文化財センターの運営に大きな影響を及ぼすことも想定していかなければなるまい。いずれにしても、粛々と整理作業を行っていくことが発掘調査を担ったものの責務であろう。

次に刊行した報告書について概略する。

第99集と第100集は高知中央東土木事務所関係の報告書で、第99集の『ミトロ遺跡』は国道195号線改築工事に伴うもので、弥生時代後期後半から終末頃を中心とした集落跡を調査し、弥生時代

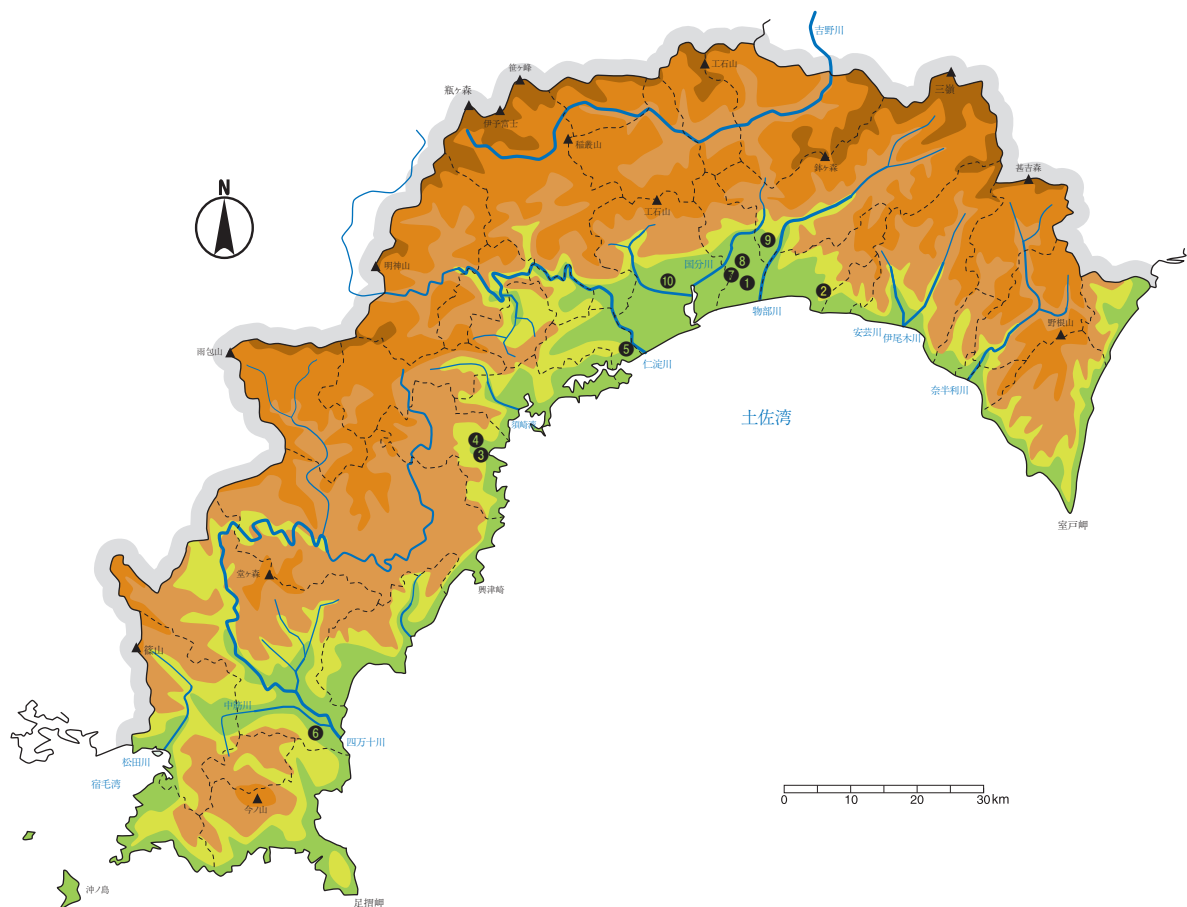


図8 平成19年度受託事業整理作業位置図(番号は受託発掘調査事業(整理作業)一覧表の番号と一致)



## 1. 発掘調査事業

中期前半の溝跡や中期末から後期初めの土坑なども検出している。また、庄内系の土器の破片も多く出土している。第100集の『介良野遺跡』は県道高知東インター線道路改築工事に伴うもので、弥生時代後期後半から終末頃の竪穴住居跡28軒を始め、土坑、溝跡など自然堤防上に立地する集落跡の調査報告である。これ以外にも弥生時代前期前葉の土坑や溝跡を調査し、壺、甕、鉢、高杯がセットで出土し、さらに、古墳時代中期の土師器や須恵器と共に勾玉の石製模造品も出土している。

第101集の『北ノ丸遺跡』は、波介川河口導流事業に伴う最初の報告書であり、調査では県内初出土となった琴板や衣笠の鏡板を始めとして古墳時代後期の木製品が多数出土している。遺跡は低湿地に所在し、祭祀的要素が強いものとみられる。

第102集の『西野々遺跡Ⅰ』は、東部自動車道建設工事に伴う最初の報告書で、平成16年度に調査したⅠ区とⅡ区で確認した弥生時代の集落跡、古代の官衙関連遺構、中世の屋敷跡の調査報告である。遺跡は広範囲に及び調査区がⅠ区からⅧ区に分かれ、全体で3分冊になる予定である。

第103集の『坂本遺跡』は、中村宿毛道路建設に伴うもので、平田・宿毛間では最後の報告書となる。調査は平成17年度に行われ、県内初となる中世寺院跡、3基の瓦窯跡などが確認され、舟形木製品を始めとして数多くの中世土器、輸入陶磁器類が出土している。

表7 平成19年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧表

シリーズ名	書名	遺跡所在地	編集・執筆者
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第99集	ミトロ遺跡 国道195号改築工事に伴う発掘調査報告書	高知市布師田	久家隆芳 岩本繁樹
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第100集	介良野遺跡 県道高知東インター線道路改築工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書	高知市介良甲	久家隆芳 坂本幸繁
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第101集	北ノ丸遺跡 波介川河口導流事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ	土佐市新居 北ノ丸	出原恵三
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第102集	西野々遺跡Ⅰ 高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ (東部自動車道建設埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ)	南国市大埴 字西野々	廣田佳久, 小野由香, パリノ・サーヴェイ
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第103集	坂本遺跡 中村宿毛道路埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅦ	四万十市坂本	前田光雄 筒井三菜
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第104集	口檜ヶ谷遺跡 南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ (東部自動車道建設埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ)	香南市夜須町 字出口・千切	廣田佳久, 下村裕, パリノ・サーヴェイ
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第105集	坪ノ内遺跡Ⅱ 四国横断自動車道(須崎～窪川間)建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書	中土佐町久礼 道の川	藤方正治 武吉眞裕
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第106集	西山城跡 四国横断自動車道(須崎市～四万十市間)建設に 伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	中土佐町久礼 字城山・下越	吉成承三

第104集の『口槇ヶ谷遺跡』は、南国安芸道路建設工事に伴って平成16・17年度に調査した同遺跡の報告書である。遺跡は弥生時代、古代、中世、近世の複合遺跡で、山地斜面に形成された開析谷の谷口部の山地斜面麓部に立地する。弥生時代の遺構は開析谷からの土砂に埋没し、埋没土の上に古代と中世の遺構が形成されていた。古代の遺構では隅丸方形の柱穴で構成された建物跡が3棟確認され、官衙関連が想定されている。

第105集と第106集は四国横断自動車道建設に伴う報告書である。『坪ノ内遺跡Ⅱ』は平成17年度と平成18年度に調査した分の報告書で、同遺跡は中世を中心とした集落跡で、掘立柱建物跡と共に素掘り井戸跡、木組井戸跡、石組井戸跡が確認されると共に輸入陶磁器を始めとして多数の遺物が出土している。『西山城跡』は中土佐町久礼に所在する中世の山城の調査報告で、城跡は遺構並びに遺物から二時期の変遷が窺える。県内初となる青磁の花瓶を始めとして、備前焼、土師質土器、輸入陶磁器など一定量の遺物が出土している。

以上が、報告書の概要であるが、報告書のデジタルデータをPDF形式でWeb公開([http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/pdf\\_sites/report.htm](http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/pdf_sites/report.htm))しているので、ご利用頂きたい。

#### 註

- (1) 工区がⅠ～Ⅲ工区あり、Ⅰ工区は丁度仁淀川の自然堤防上に当たり、平成7年度の試掘調査の結果を受け、平成8年度から本格的な発掘調査に着手し、平成16年度に終了している。Ⅱ工区については平成17・18年度に試掘調査を実施したが、発掘調査には至らず終えている。今後、土佐市蓮池城跡北面以西に当たるⅢ工区が残っている。
- (2) 西野々遺跡は平成16年度から平成19年度まで発掘調査を行った遺跡で、3分冊の報告書を刊行する予定である。平成19年度は『西野々遺跡Ⅰ』を刊行している。
- (3) 計画では、平成16～20年度に発掘調査、平成21～23年度に整理作業を行うことになっており、調査した北ノ丸遺跡については2～3分冊、上ノ村遺跡については6～7分冊の報告書を刊行する予定である。

2. 指定管理事業

2. 指定管理事業

平成18年度から指定管理者制度の導入に伴い、(財)高知県文化財団が指定管理者となり、高知県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務を行うようになって、2年目である。管理運営代行業務には施設管理、出土文化財等資料管理、広報普及事業があり、施設管理に当たる高知県立埋蔵文化財センターの施設管理については来館者の適切な利用が図れるように管理を行い、出土文化財等資料管理では平成18年度に制定した資料管理要領に則って適切な管理に務めた。広報普及事業については、平成19年度にホームページのリニューアルを行い、発掘調査報告会と古代ものづくり体験教室を新たに設け、地域の歴史や遺跡について興味や関心を高めてもらうよう努めた。また、事業の周知を図るために初めて年間事業カレンダーを平成18年度末に作成した。

なお、各事業の概要は以下のとおりである。

表8 平成19年度入館者数

考古学講座		発掘調査報告会		親子考古学教室		古代ものづくり体験教室		先生のための考古学教室		遺跡見学会	
開催日	人数	開催日	人数	開催日	人数	開催日	人数	開催日	人数	開催日	人数
5月26日	27人	6月9日	26人	7月28日	23人	9月8日	7人	8月2日	4人	10月25日	6人
7月21日	14人	8月11日	29人	8月15日	45人	9月12日	4人	8月3日	5人		
11月17日	48人	10月27日	27人	8月25日	50人	9月29日	24人				
1月26日	21人	12月15日	56人	9月15日	28人						
合計	110人	合計	138人	合計	146人	合計	35人	合計	9人	合計	6人
展示会	人数	常設展	392人	四国巡回展	809人	企画展	501人	特別展	333人	その他	147人
展示報告会				8月4日	23人	10月20日	13人	2月2日	16人		
展示解説会				9月1日	8人	12月1日	11人	3月1日	16人		

(1) 公開展示

埋蔵文化財センターの発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開し、埋蔵文化財保護の推進及び普及啓発を図るとともに県民文化の振興に寄与することを目的として、平成19年度から特別展を新たに設け年間4回の展示会を開催した。また、入館者目標を昨年度の入館者数1,553人を踏まえ1割増の1,700人に設定し、入館者数の増員を図った。その結果、2,182人の入館者があり、昨年度の約40%増となり目標は大きく達成され、さらに開館以来初めて年間入館者数2,000人を突破した。しかし、他の文化施設と比べると依然として少なく、今後、県民に埋蔵文化財への関心をさらに高めていくことが必要である。

なお、4月に年間の展示会(四国巡回展「発掘へんろ」、企画展、特別展)のポスターとチラシを作成し、開催約1ヵ月前に各学校、文化施設、銀行、量販店等へ配布し、掲示の依頼を行って展示会の周知を図った。



写真1 発掘へんろポスター



① 常設展

平成19年4月16日(月)～7月13日(金)を会期に、「考古学から見た高知県の歴史」をテーマとして、旧石器時代から江戸時代までの埋蔵文化財センターに所蔵する発掘調査等で得られた出土文化財を用いて高知県の歴史を概観する展示を行った。また、観覧の便を供するために展示解説シートを作成した。入館者は392人であった。

② 四国巡回展「発掘へんろ」



写真2 発掘へんろ展示報告会  
 写真2 発掘へんろ展示報告会  
 から各県市2遺跡をピックアップして速報展示(列品数51点)とした。

地域の歴史に光を当てることを目的に、四国内の埋蔵文化財センターが合同で出土品の展示を行うもので、4回目を数える。展示はテーマ部門と速報部門に分かれ、平成19年度は「四国の装飾品」をテーマに、縄文時代から平安時代までに人々が身に付けた道具143点を展示し、美に関する出土品を通じて古代の四国や精神文化を考える切っ掛けを提供した。また、最近の発掘調査

高知会場は、平成19年8月1日(水)～9月30日(日)までの会期で行い、7月31日(火)には地元の人を対象とした内覧会、8月4日(土)に展示報告会(23人)、9月1日(土)に展示解説会(8人)をそれぞれ開催し、会期中の入館者数は809人であった。なお、展示パンフレットを作成し、観覧の便に供した。

③ 企画展

平成19年度からは速報展に代えて企画展として「道路開発であらわれた遺跡展」シリーズを開催することとした。埋蔵文化財センターの発掘調査の多くは道路開発に伴うもので、複数年に跨がるものも少なくなく、これまで発掘調査を行った道路開発に関わる遺跡を、道路開発ごとに取り上げてその成果を公表するものである。

平成19年度は、第1回目として平成6年度から平成17年度まで発掘調査を行った中村宿毛道路を取り上げ、「道路開発であらわれた遺跡展Ⅰ」-中村宿毛道路建設に伴う発掘調査成果から-を開催した。展示では県内の発掘調査の中では12年間という最も長い調査期間を要し、幡多地域の歴史解明に大きく貢献した具同中山遺跡群を始めとした10遺跡を取り上げ、展示を行った。10月20日(土)に展示報告会(13人)、12月1日(土)に展示解説会(11人)を開催し、会期中の入館者は501人であった。なお、展示解説シートを作成し、観覧の便に供した。

④ 特別展

平成19年度に新たに設けた展示会で、埋蔵文化財センターが



写真3 企画展ポスター

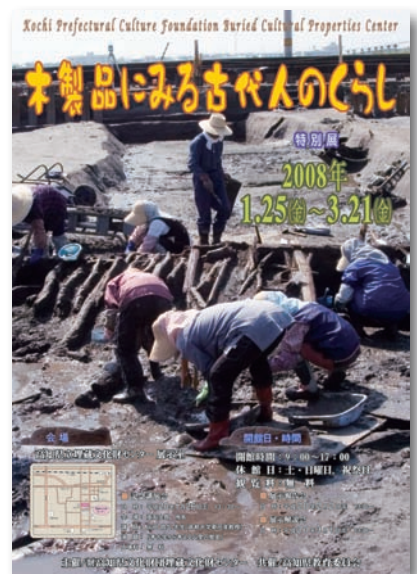


写真4 企画展ポスター

## 2. 指定管理事業

実施した発掘調査により出土した出土文化財等について、特定のテーマに基づき集成した遺跡・遺物に関する写真パネルや解説パネルを併用し、平易で分かりやすい展示を行うことを目的とする。平成19年度は「木製品からみる古代人の暮らし」をテーマに、古代人と木を利用した道具の関わり合いと道具の進化を見てもらうため埋蔵文化財センターの発掘調査で出土した木製品を中心に展示した。また、展示パンフレットを作成し、観覧の便に供した。会期中の2月2日(土)に展示報告会(16人)を、3月1日(土)に展示解説会(16人)を開催し、1月26日(土)には高知会館で講師に首都大学東京の山田昌久教授を迎え「考古学から考える山里の歴史」と題した記念講演会を開催した。一般向けの講演会であり、77人の参加があった。



写真5 特別展記念講演会

### (2) 公開講座等

平成19年度は毎月少なくとも1講座設けることとし「発掘調査報告会」、「古代ものづくり体験教室」、「先生のための考古学教室」の3講座を新たに加え、遺跡の調査や埋蔵文化財についての興味や関心を高めてもらうと共に、埋蔵文化財保護意識についての一層の向上を目指した。また、考古学入門講座の名称を二年目であることから考古学講座に代え、内容を絞った講座とした。

#### ① 考古学講座

埋蔵文化財センターの中核をなす講座で、平成19年度も埋蔵文化財センターで2回、四万十市教育委員会と共催して四万十市中央公民館で1回、南国市教育委員会と共催して南国市役所で1回の計4回の講座を開催した。

講座は平成19年度から1回につき1名の職員が受け持ち、土曜日の午後1時30分から3時30分までの2時間で行った。本講座は2年目となり、毎回出席してくれる方も多く、かつ満席になる時もあり、一定定着してきた感がある。



写真6 考古学講座

表9 平成19年度考古学講座

No.	開催日	内容	担当者
1	平成19年5月26日	県内の古墳について	廣田佳久
2	平成19年7月21日	四万十市周辺の遺跡－古墳時代における水辺の祭祀－	出原恵三
3	平成19年11月17日	中世城郭について	吉成承三
4	平成20年1月26日	南国市周辺の遺跡－弥生時代の遺跡を中心に－	坂本憲昭

#### ② 発掘調査報告会

平成19年度新たに設けた講座で、近年埋蔵文化財センターが実施した発掘調査の研究成果等について、スライドを使い解説すると共に出土遺物にも触れてもらい、埋蔵文化財に対する興味・関心を



深めることを目的とする。

報告会は年4回開催することとし、発掘調査を担当した調査員が受け持ち、土曜日の午後1時30分から3時までの1時間30分で行った。整理作業も一定進んでおり、現地説明会より濃い内容となり、満席となる報告会もあった。

### ③ 先生のための考古学教室

埋蔵文化財センターには派遣教職員が多く、業務の一翼を担っており、出前考古学教室では中心的役割を果たしている。このことを踏まえ、



写真7 発掘調査報告会

表10 平成19年度発掘調査報告会

No.	開催日	内容	担当者
1	平成19年6月9日	伏原遺跡(平成18年度の発掘調査報告)	徳平涼子
2	平成19年8月11日	花宴遺跡(平成17・18年度の発掘調査報告)	下村裕
3	平成19年10月27日	介良野遺跡(平成18年度の発掘調査報告)	久家隆芳
4	平成19年12月15日	西野々遺跡(平成16～19年度の発掘調査報告)	小野由香

平成19年度に新たに設けた講座で、小・中・高等学校の先生を対象とし、埋蔵文化財センターの業務を知っていただくと共に学校との連携を強めることを目的としている。講座は夏休み期間の8月2・3日の二日に互って開催し、9人の参加があった。考古学講座に加え、発掘調査の現場体験や土器洗い、ガラス玉づくりなどを体験して頂いた。



写真8 先生のための考古学教室

### ④ 親子考古学教室

従前から開催している教室で、火起こしや勾玉づくりなどの古代体験を中心に、埋蔵文化財に親しんでもらうために行うもので、平成19年度は埋蔵文化財センターで3回開催する予定であったが、申し込みが多く、1回追加開催した。参加した親子は合計146人であった。開催日は7月28日(土)、8月15日(水)、8月25日(土)、9月15日(土)の4回で時間は午後1時から3時30分までの2時間30分であった。



写真9 親子考古学教室

### ⑤ 古代ものづくり体験教室

平成19年度新たに設けた講座で、発掘調査で出土した遺物をもとにその当時の人々がどのような技法を使用し、物づくりをなし得たかを実際に体験することで、埋蔵文化財に対する関心と理解を深めてもらうことを目的としている。平成19年度はガラス玉づくりを行った。女性からの申し込みが多く、2回開催予定を1回追加開催した。開催日は9月8日(土)、9月12日(水)、9月29日(土)の



写真10 古代ものづくり体験教室

## 2. 指定管理事業

3回で、時間は午後1時30分から3時30分までの2時間で行い、参加者は合計35人であった。

### ⑥ 発掘現場見学会

平成19年度は、平成18年度に実施した遺跡見学会に代わって、発掘調査を行っている現場を現場担当者の説明を聞きながら見学する企画とした。見る機会の少ない発掘途中の現場を見てもらうことによって、埋蔵文化財への親しみを持っていただくと共に埋蔵文化財センターの仕事への理解を深めてもらうことを目的としている。平成19年度は土佐市上ノ村遺跡の発掘調査現場の見学会を10月25日(木)午後1時30分から3時30分までの2時間で行い、6人の方の参加があった。



写真11 発掘現場見学会

### (3) 情報公開等

インターネットを活用した情報公開、物品(県有物)等の貸出、施設見学や体験教室、発掘現場見学などの受入を行っている。

#### ① ホームページ

平成19年度は、平成11(1999)年10月31日に開設したホームページのリニューアルを行い、使い勝手のよいデザインに変更すると共にコンテンツも充実するように心掛けた。各種講座や展示会の案内、発掘調査状況など埋蔵文化財センターが行っている事業などを随時提供するように努めている。

(財)高知県埋蔵文化財センター URL:

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

#### ② Web公開データベース

平成16(2004)年度から本格運用を始めたサイトで、埋蔵文化財センター内にサーバを設置し、管理運用を行っている。大きく埋蔵文化財情報管理システムと報告書PDFに分かれ、前者では遺跡情報管理(遺跡台帳)、収蔵図書情報管理(図書台帳)、県内発掘調査情報管理(報告書抄録)をWeb公開し、後者では埋蔵文化財センター発行の報告書、年報、現地説明会資料等印刷物のPDFデータを掲載している。いずれも随時更新しており、平成19年度は、報告書PDFについてホームページに合わせたデザインにリニューアルした。

情報管理データベース URL: <http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>



写真12 ホームページ



写真13 報告書PDFトップページ

## ③ 物品(県有物)等の貸出と資料管理

出土文化財、図書等の資料管理については、平成18年度に制定した高知県立埋蔵文化財センター

表11 平成19年度物品(県有物)貸出し一覧

No.	日 時	依 頼 者	内 容	備 考
1	H19.4.1～H20.3.31	愛知県陶磁資料館	愛知県陶磁資料館に出品	18年度から引き続き19年度も
2	H19.5.16～5.21	潮江中学校	歴史について生徒の興味関心を高めるため	
3	H19.5.29	(株)テレビ高知映像	資料映像の一部として	センター内での撮影
4	H19.6.11～6.15	熊本大学大学院 芝康次郎	実見・写真撮影・実測	センター内での実測
5	H19.6.19～9.20	国立歴史民俗博物館	企画展展示	
6	H19.7.13	愛媛県埋蔵文化財調査センター	寸法計測・写真撮影	センター内での実見
7	H19.7.19	広島大学大学院 竹広文明	学術論文執筆のための資料調査	センター内での実見
8	H19.8.10	大阪府文化財センター 中尾智行	前期弥生土器の研究	センター内での実見
9	H19.8.8	徳島市立考古資料館 一山典	特別企画展の展示希望資料等の事前調査	事前調査
10	H19.8.27～8.29	日本考古学協会 松本安紀彦	実測及び拓本	センター内での実見
11	H19.9.7～9.9	高知市教育委員会 浜田恵子	研究会会場内での資料展示	研究会展示
12	H19.9.10	大手前大学大学院 赤松和佳	資料見学	センター内での実見
13	H19.9.27	高知大学 吉川裕子	遺物の実見、デジカメによる撮影	センター内での実見
14	H19.10.2～12.4	徳島市立考古資料館	特別企画展展示	展示
15	H19.10.9～12.4	春野町立郷土資料館	企画展展示	展示
16	H19.10.30	高知大学 吉川裕子	遺物の実見、デジカメによる撮影	センター内での実見
17	H19.11.16	高知大学 清家章	科学研究費研究会資料見学	センター内での実見
18	H19.12.4	高知大学 清家章	考古学実習での資料として使用	考古学研究室での実習
19	H19.12.5	愛媛大学 藤田直子	卒業論文作成の為	センター内での実見・実測
20	H19.12.12～12.13	高知市教育研究所 松村信博	高知市教育研究所での体験活動の為	学校での授業に使用
21	H20.1.29	宮崎県埋蔵文化財センター 松本茂	資料の実見	センター内での実見
22	H20.2.4	日本考古学協会 中沢道彦	論文作成・研究発表	センター内での実見
23	H20.3.25～3.31	高知大 岡本治代	実見・拓本・実測図作成	センター内での実見
24	H20.3.28	別府大 橘昌信	資料見学	



## 2. 指定管理事業

資料管理要領に則り、資料管理を迅速かつ適切に管理・貸出を行った。全国の発掘調査報告書を中心とした図書についてはすでにWeb公開しており、交換図書として寄贈された報告書や購入した専門書は随時登録し、一般の方にも情報提供している。

収蔵庫で管理している出土文化財についてはデータベース化し、埋蔵文化財センターのイントラネット上で検索できるシステムとしている。

平成19年度には出土遺物等資料等の借用依頼は24件あり、文化財保護推進のために活用を図ることを基本方針として迅速に対応した。なお、貸出の内訳は、他施設への県有出土品の貸出が8件、表12 平成19年度現地説明会一覧

No.	年月日	場 所	遺 跡 名	参加人数	備考
1	平成19年9月16日	土佐市新居上ノ村	上ノ村遺跡	約30人	
2	平成19年9月29日	香美市香我美町徳王子広本	徳王子広本遺跡	約70人	
3	平成19年10月21日	南国市小籠	土島田遺跡	約100人	
4	平成19年12月16日	高知市丸ノ内	高知城跡三ノ丸	約120人	
5	平成20年2月24日	土佐市新居上ノ村	上ノ村遺跡	約120人	
合 計				約440人	

表13 平成19年度施設等見学者一覧

No.	団体名	見学日	見学者	引率者	総数	内容	備考
1	高知市立 土佐山小学校	平成19年5月17日	7人	2人	9人	展示・館内見学	
2	南国市小学校 社会科部会	平成19年7月25日	25人	5人	30人	館内見学, 体験学習	勾玉づくり・火 起こし
3	三和しあわせの会	平成19年5月22日	68人	3人	71人	展示・館内見学	
4	細木ユニティー病院	平成19年6月26日	15人	1人	16人	展示・館内見学	
5	南国市文化とスポーツ 振興NPO	平成19年8月26日	20人	2人	22人	展示解説, 体験学習	勾玉づくり
6	高知市教育研究会 社会科部会	平成19年8月1日	60人	1人	61人	展示・館内見学, ミニ講座	先生のための 考古学基礎講座
7	南国市立 大篠小学校	平成19年6月20日	4人	2人	6人	展示見学, 体験学習	火起こし
8	須崎市立 吾桑小学校	平成19年8月20日	14人	2人	16人	体験学習	ガラス玉づくり
9	室戸市立 元小学校	平成19年11月22日	22人	1人	23人	体験学習	勾玉づくり・火 起こし
10	土佐町立 森小学校	平成19年12月13日	20人	2人	22人	展示・館内見学, 体験学習	勾玉づくり・火 起こし
11	大豊町 校長会事務局	平成19年12月28日	5人	1人	6人	展示・館内見学, 地域の歴史の解説	
12	下知長寿会	平成20年3月3日	30人	1人	31人	展示・館内見学	
合計			290人	23人	313人		

センター内での遺物の実見・実測が14件、施設のビデオ撮影1件、職員への貸出が1件であった。

④ 施設見学等の受入

団体での施設見学、研修、展示解説、発掘現場の見学などの受入も行っており、平成19年度は12件の申し込みがあった。内訳は、小学校が5件、小学校社会科部会が2件、その他5件であった。

(4) 出前考古学教室

① はじめに

「出前考古学教室」は今年度で9年目を迎え、これまでに実施した学校は小学校を中心に286校、授業を受けた児童生徒数は延べ11,055人、展示・体験学習等の参加総数は18,722人を数える。年度末に行う翌年度の出前考古学教室の募集には予定以上の応募があり、9月以降に変更して頂いた学校も少なからずあり、県内の学校に浸透したものである。



写真14 土器作り

一方、高知県の指定管理者制度の導入に伴い、当センターは高知県文化財団として平成18年度より20年度までの3年間の指定管理者となり、公開展示・公開講座・出前考古学教室等、普及啓発事業の充実を図るように努めている。その中で、出前考古学教室の予定実施校は平成18年度から約50校を目処に募集を行っている。その結果、平成19年度前期は30校(連合を含めると46校)、後期は21校(連合22校)の合計51校で実施した。対象者は、前期が小学6年生を中心に、後期は小学6年生や学年行事、中学校等であった。

② 概要

平成19年度は51校、合同開催を含めると68校で行い、授業を受けた児童生徒数は2,058人、体験学習等の参加者を含めた総数は2,467人を数える。

i 前期

4月中旬から下旬にかけて各学校に出向き打合わせを行った上で、5月1日の香南市立野市小学校  
表14 平成11～19年度出前考古学教室実績一覧

No.	年度	実施対象地域	対象学校	実施校	実施時期	授業生徒数	参加生徒数
1	平成11年度	南国市	小・中学校	10校	前期	505人	1,428人
2	平成12年度	全県下	小学校	28校	前期	1,352人	3,789人
3	平成13年度	全県下	小学校	26校	前期	1,060人	2,233人
4	平成14年度	全県下	小学校	27校	前期	944人	2,541人
5	平成15年度	全県下	小学校	29校	前期	1,232人	2,121人
6	平成16年度	全県下	小学校	31校	前期	1,083人	1,083人
7	平成17年度	全県下	小学校	33校	前期・後期	1,049人	1,357人
8	平成18年度	全県下	小・中学校	51校	前期・後期	1,772人	1,703人
9	平成19年度	全県下	小・中学校	51校	前期・後期	2,058人	2,467人
合 計				286校		11,055人	18,722人

## 2. 指定管理事業

を皮切りに、7月13日の越知町立越知小学校までの30校で実施した。授業を受けた児童数は1,198人、展示・体験学習等の参加者を含めた総数は1,409人であった。

### ii 後期

7月中旬から下旬にかけて申し込みのあった学校に電話連絡で事前調整を行った上で、夏休み期間に当センターへ来て頂き、実施日の時間帯や準備物など詳細について打ち合わせを行い、遠方で来館できない学校については再度電話連絡で調整し、10月5日の南国市立三和小学校から2月28日のいの町立下八川小学校までの21校で実施した。授業を受けた児童生徒数は860人、展示・体験学習等の参加者を含めた総数は1,058人であった。

### ③ 内容

出前考古学教室の内容は、地域の遺跡や発掘調査関連、各時代の特徴などの授業を核に、火起こしや勾玉づくり、遺物の展示などで構成したが、学校の要望によって土器焼きも取り入れた。平成19年度も火起こしや勾玉づくりなどの体験学習にボランティアの協力を受け、中規模校以上ではボランティアの協力は不可欠となっている。

#### i 授業

授業は資料や遺物を使い埋蔵文化財センターの仕事、学校周辺の遺跡の紹介や時代ごとの話などについて説明した。教科書等に掲載されている遺跡は教わっているが、地元の遺跡についてはほとんど知らないのが現状であり、遺跡地図を用い身近にある遺跡や出土遺物を紹介すると共に「高知県の遺跡」や「遺跡の発掘調査と整理作業」の視覚教材や副読本「土の中からこんにちは」を活用し、県内の遺跡や発掘調査の様子などの説明を行った。



写真15 授業風景

#### ii 体験学習

##### a. 火起こし

出前考古学教室の中で最も人気のある授業で、実施校のほぼ全校で実施している。後期は学年行事や参観日に児童と保護者が一緒に取り組む場があり、和気あいあいと火起こしをしている姿が微笑ましかった。天候にも左右されるが、何度も挑戦する児童、次は別の火起こし道具を使い果敢に挑戦する児童もいた。中にはきりもみ式で着火できた女子児童もあり、火を起こせた喜びや感動、達成感を味わうことができ体験学習では欠かすことができないものになっている。



写真16 火起こし

##### b. 勾玉づくり

勾玉づくりも人気のある授業であるが、材料費が290円かかるため希望校のみの実施となっているにも関わらず、実施校のほぼ全校で実施している。勾玉の製作前にスライドで勾玉の意味や作り方を説明し、勾玉づくりへの意欲を高めるようにしてから作業に取りかかった。一人ひとり、個性の



ある勾玉の形を描き最後まで自力で仕上げる事ができた。自分の思いがこもった勾玉ができ、あちらこちらで笑顔いっぱい表情に溢れ、「勾玉を宝物にする。」という嬉しい声も聞かれた。

c. その他

昨年度の香川県への土器焼き調査を踏まえ、平成19年度は実際に土器焼き体験学習をいの町立下

表15 平成19年度出前考古学教室前期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業クラス		展示・体験学習		担当職員	ボランティア
				数	人数	学年	人数		
1	5月1日	香南市	野市小	3	103人	6年	103人	5人	3人
2	5月2日	香美市	楠目小	1	26人	6年	26人	3人	2人
3	5月8日	本山町	本山小・吉野小	2	31人	6年	31人	3人	-
4	5月15日	いの町	小川小	1	21人	1～6年	32人	2人	1人
5	5月17日	香美市	大栃小	1	11人	2・5年	39人	2人	-
6	5月18日	室戸市	室戸小	2	46人	6年	46人	4人	-
7	5月21日	須崎市	横浪小	1	17人	6年	17人	3人	-
8	5月22日	梶原町	四万川小	1	7人	1～6年	32人	3人	-
9	5月24日	高知市	一ツ橋小	2	45人	6年	45人	2人	2人
10	5月29日	土佐市	高岡第一小	3	84人	6年	84人	4人	3人
11	6月1日	土佐市	蓮池小	1	38人	6年	38人	3人	2人
12	6月4日	四万十町	東又小・影野小	2	19人	4～6年	40人	3人	-
13	6月7日	宿毛市	平田小・松田川小	2	43人	6年	43人	3人	-
14	6月8日	大月町	弘見小他9校	10	64人	6年	64人	3人	-
15	6月12日	室戸市	吉良川小	1	21人	1～6年	68人	3人	-
16	6月14日	高知市	横浜新町小	3	101人	6年	101人	4人	2人
17	6月15日	南国市	日章小	1	34人	6年	34人	3人	1人
18	6月18日	四万十市	本村小・大宮小	2	10人	4・6年	10人	2人	-
19	6月19日	四万十町	昭和小	1	20人	1～6年	45人	2人	-
20	6月21日	安芸市	伊尾木小	1	7人	5～6年	18人	2人	1人
21	6月24日	南国市	国府小	1	25人	5～6年	25人	2人	2人
22	6月26日	四万十市	中村小	2	51人	6年	51人	3人	-
23	6月27日	黒潮町	田ノ口小・伊田小	2	37人	1～6年	37人	3人	-
24	6月29日	土佐市	宇佐市	1	22人	6年	22人	4人	1人
25	7月2日	土佐清水市	三崎小・中浜小	2	25人	4～6年	38人	3人	-
26	7月3日	土佐清水市	清水小	2	75人	6年	75人	3人	-
27	7月5日	仁淀川町	大崎小・池川小	2	20人	6年	20人	3人	2人
28	7月9日	高知市	一宮東小	2	63人	6年	63人	4人	3人
29	7月12日	高知市	潮江小	3	80人	6年	80人	5人	3人
30	7月13日	越知町	越知小	2	52人	6年	52人	3人	2人
合 計				60	1,198人		1,379人	92人	30人

## 2. 指定管理事業

八川小学校で2回に分けて実施した。1回目は土器の作り方の説明と土器作り，2回目は土器焼きの作業を行った。アンケート集計で体験活動をさらに重視してほしいという要望もあり，火起こしや勾玉づくりなどと共に土器づくりを希望する学校が今後増えるのではなかろうか。ただし，土器焼きには乾燥期間が必要で，どうしても2回実施する必要がある，希望する学校側の協力なしにはできない体験学習でもある。今回の体験学習を可能にしたのは当センターに在籍したことのある教員の協力が大きかった。



写真17 勾玉づくり

### iii 遺物の展示解説

県内には歴史系の展示施設が少なく，県内の学校を訪問することで日頃目にするののない遺物

表16 平成19年度出前考古学教室後期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業クラス		展示・体験学習		担当職員	ボランティア
				数	人数	学年	人数		
1	10月5日	南国市	三和小	1	24人	1・2・6年	96人	2人	-
2	10月9日	高知市	新堀小	2	56人	3年	56人	2人	1人
3	10月11日	四万十市	東中筋小	1	17人	6年	17人	2人	-
4	10月12日	四万十市	東山・田野川小	3	61人	5・6年	61人	2人	-
5	10月17日	香南市	佐古小	2	0人	4年	60人	2人	4人
6	10月19日	高知市	第四小	2	57人	6年	57人	2人	2人
7	10月27日	香美市	香長小	1	0人	3年	11人	2人	-
8	10月30日	須崎市	南小	1	11人	6年	11人	2人	-
9	11月8日	四万十市	竹島小	1	9人	3～6年	26人	2人	-
10	11月13日	南国市	日章小	2	38人	4年	38人	3人	-
11	11月18日	高知市	横浜中	4	120人	2年	120人	4人	-
12	11月20日	香南市	野市東小	2	54人	6年	54人	2人	1人
13	11月30日	南国市	後免野田小	1	27人	6年	27人	2人	-
14	12月4日	いの町	伊野南小	3	81人	6年	81人	2人	3人
15	12月6日	南国市	香長中	5	200人	1年	200人	3人	-
16	12月7日	土佐市	高石小	1	12人	5・6年	29人	2人	-
17	12月11日	土佐市	新居小	1	16人	6年	16人	2人	-
18	12月14日	日高村・佐川町	加茂小	1	20人	6年	20人	2人	-
19	1月18日	高知市	御豊瀬小	2	10人	4～6年	14人	2人	-
20	2月10日	須崎市	多ノ郷小	1	30人	6年	30人	2人	-
21	2月12日	いの町	下八川小	3	17人	2～6年	17人	4人	-
22	2月28日	いの町	下八川小			2～6年	17人	4人	-
合計				40	860人		1,058人	52人	11人

に触れる機会を与えることができたと考えている。実施校では6年生以外の希望も多く、時間の許す限り他学年にも対応した。学年によって発達段階が異なるため、遺物の名称や使用方法などについて説明する時は、絵画や写真を提示しながら解説した。下級生にも分かるような話し方に留意することで、遺物に興味関心を示してくれた。土器や石器などに直に触れ、本物の迫力を五感で味わえ、体感できる場を設け、先人がどんな生活をしていたか思い巡らせたり、長い時間をかけて磨かれた技術の素晴らしさに触れることができた。



写真18 展示解説

#### iv ボランティア

平成19年度は12名の方にボランティアをお願いした。手伝いを受ける作業は、火起こしや勾玉づくりにおける児童への支援や遺物展示の補助である。参加して下さった方々からは、「来年度も協力しましょう。」という心強い声も聞かれた。

#### ④ その他の試み

希望校との事前打ち合わせについてはこれまでは担当が直接出向いて行っていたが、後期から経費面と時間短縮を図るために電話とファックスで行うと共に学校の所在地確認には携帯用のナビを導入し、効率化を図った。一方、埋蔵文化財センターに来たことのない学校の担当者も少なからずおり、できるだけ埋蔵文化財センターに来て頂いて打ち合わせを行うこととした。

#### ⑤ 本年度の成果

出前考古学教室は、いずれの実施校でも児童生徒や教員に大変好評であった。特に火起こし体験や勾玉づくりは子どもたちに人気があり、機会があればまたやってみたいという声が多々聞かれた。また、身近にあった遺跡の説明や本物の遺物に直に触れることで、子どもたちの目の輝きが学習の事前と事後では明らかに違っていた。地域の埋蔵文化財を知ると共に遺物を実際に手で触れる体験を通して、自分たちが住んでいる地域の歴史や文化を再認識する場となったことが挙げられる。

出前考古学教室実施後は、子どもたちや教員にアンケート調査を行った。やってみたい学習や活動、感想、授業後の疑問や質問などを記入していただいた。質問に対しては後日返答し、感謝の言葉をいただくなど、喜びに堪えない。今後もこれらの活動を継続し、より多くの子どもたちに歴史や考古学を学ぶことの楽しさやおもしろさを広め、興味関心を持ち続けてもらいたいと考えている。

また、平成18年度からは改善できるところはできるだけ見直しを行っており、一定合理的・効率的に事業が執行できるようになったとは感じているが、さらなる改善には職員自身のスキルアップが不可欠である。



写真19 土器焼き

## 2. 指定管理事業

表17 平成19年度埋蔵文化財センター新人及び市町村職員研修

項目	研修項目		備考
	午前(概論・各論)	午後(各論・研修)	
4月16日(月)	埋蔵文化財保護行政 (文化財課)	発掘調査の概要 (藤方)	
4月17日(火)	考古資料の見方 (坂本)	測量実測 (坂本)	
4月18日(水)	整理作業の方法 (筒井)	写実実習 (吉成)	
4月19日(木)	旧石器・縄文時代 (前田)	遺物実測Ⅰ (前田)	実測道具必要
4月20日(金)	弥生時代 (久家)	遺物実測Ⅱ (久家)	実測道具必要
4月23日(月)	古墳時代 (小野)	遺物実測Ⅲ (小野)	実測道具必要
4月24日(火)	古代 (徳平)	遺物実測Ⅳ (徳平)	実測道具必要
4月25日(水)	地域の遺跡を歩く (山本)	歴史民俗資料館見学 (山本)	
4月26日(木)	中・近世 (筒井)	遺物実測Ⅴ (筒井)	実測道具必要
4月27日(金)	報告書の作成と活用 (徳平)	デジタル情報処理(DTP) (徳平)	

### ⑥ 今後の課題と目標

#### i 実施回数

前期は30校で実施したが、予定をこなすことに追われ細部に配慮が行き届かないこともあり、専門職員やボランティアの存在が大きかった。

後期は21校で実施したが、前期と比べ資料を準備する時間が確保でき、当日は派遣教員2人でも何とか子どもたちへの支援も含め無事行うことができた。ただ、派遣教員のみで対応することも可能だが、専門職員が入ることで更に出前考古学教室の内容が深まると思われる。

#### ii 学校側の受け入れ態勢

実施校とは事前に電話やファックスで時間帯、準備品等を話し合い、当日に学習効果が高められるよう連絡を密にした。学校の受け入れは協力的で展示品の搬送や準備物など、限られた時間内で実施する出前考古学教室の一担当者として嬉しく思えた。一方、こちらに任せ切りという学校や参観日を希望した学校もあり、実施校の選定に当たっては検討する必要がある。

#### iii 道具類の改良

4月当初、火起こし道具(舞いぎり式)の軸木を短くすることで回転がスムーズになり初心者でも取り扱いが簡単になったことが挙げられる。また、他の火起こし道具(きりもみ式・紐ぎり式・弓ぎり式)を数点と火きり板を購入することで幅広い火起こし体験が可能になった。火起こしは結果が明確に現れるので、道具類の工夫と改善を重ねていく必要がある。

表18 平成19年度研修参加者

No.	所属	職名	氏名
1	土佐清水市	生涯学習課課長補佐	芝岡恵三
2	南国市	生涯学習課指導主事	坂本裕一



iv アンケートの見直し

前期のアンケートは体験学習に対するの質問項目が多かったので精査し簡素化した。新たに疑問・質問コーナーを設け、授業や体験学習後に気になった事や不思議に思うことなどを自由に書いてもらえるようにした。大人では考えつかないような質問もあり、出前考古学教室に興味関心を持って望んでくれていたのではないだろうか、質問の多さに驚くと共に感謝でいっぱいであった。アンケートは、次年度の授業の内容や体験活動の展開のうえでの参考としたい。



写真20 職員専門研修

v 担当職員

前期の出前考古学教室は資料づくりや準備等がしっかりできていない場合もあり、プロパー職員の協力を仰ぐことで事業をこなしていった思いがある。前期の反省を踏まえ後期の実施に当たり、校区付近にある遺跡や遺物の紹介と解説についての知識と資料づくりができたので、前期よりゆとりを持って実施日を迎えることができた。授業においても、前期の反省を踏まえ児童生徒の実態や興味関心の持てそうな内容にするための資料(配布プリントや提示用の写真やパネル)をつくり授業に臨むことができた。一方、職員の中には込み入った質問に十分に対応できていない事もあり、遺跡や遺物等、考古学に関する知識と認識のレベルアップを図る必要性を感じた。

表19 平成19年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師	所属
1	県内産の石製品の石材について	平成19年7月19・20日	吉倉紳一	高知大学理学部
2	戦争遺跡について	平成19年11月26・27日	伊藤厚史	名古屋市見春台考古資料館

表20 平成19年度独立行政法人奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者研修課程

No.	参加研修名	期間	氏名
1	保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程	平成19年5月21日～5月29日	井上昌紀
2	地方官衙遺跡調査過程	平成19年10月1日～10月5日	小野由香

表21 平成19年度情報交換会

No.	研修内容	開催日	担当
1	電子平板システム(カタタシステム)について	平成19年5月28日	坂本憲昭
2	土島田遺跡発掘調査報告	平成19年9月28日	山本哲也
3	田村城館跡発掘調査報告	平成19年9月28日	坂本裕一(南国市教委)
4	保存科学-有機質遺物-奈文研研修報告	平成20年2月4日	坂本憲昭
5	官衙遺跡の発掘調査法奈文研研修報告	平成20年2月4日	小野由香

2. 指定管理事業

(5) 研修事業

平成19年度も新人職員と市町村文化財担当職員を対象とした一般研修と外部講師を招聘して行う職員専門研修を実施すると共に奈良文化財研究所主催の研修に職員を派遣した。

(6) 講師等職員の派遣

県内外の文化施設及び団体や大学と教育委員会などからの講師依頼に埋蔵文化財の広報普及の観点から可能な限り応じることとしており、平成19年度は8ヵ所から依頼があり、6名の職員を派遣(表22)した。また、会議等への派遣は表23のとおりである。

表22 平成19年度講師等派遣依頼一覧

No.	日時・期間	派遣職員	依頼元	内容	備考
1	5月25日	吉成 承三	高知城友の会	講師依頼「城の歴史と縄張りの特徴」	
2	5月26日	久家 隆芳	高知市布師田地区 公民館連絡協議会	講師依頼「ミトロ遺跡の発掘調査成果について」	
3	6月1日～3月31日 の間の埋蔵文化財センターの業務に支障のない日	森田 尚宏 前田 光雄	大月町教育委員会	銚土越遺跡保護のための試掘確認調査の指導	
4	6月17日	出原 恵三	日韓友好協会高知県支部	講師依頼「朝鮮半島と田村遺跡」	
5	7月5日	廣田 佳久	(財)高知市文化振興事業団	講師依頼「最近の発掘調査の成果」	
6	9月22日	出原 恵三	徳島市教育委員会	講師依頼「高知平野における弥生文化の成立と発展」	
7	10月1日～3月31日	廣田 佳久	高知女子大学	高知女子大学非常勤講師(考古学・博物館学Ⅱ)	木・金曜日の5限目
8	3月19日	吉成 承三	地盤工学会四国支部 高知県地盤工学研究会	講師依頼「高知城三ノ丸の発掘調査」	

### 3. その他の事業

平成19年度は平成18年度に引き続き発掘調査事業や指定管理事業以外に全国埋蔵文化財法人連絡協議会(全埋協)関係事業があった。丁度、平成18・19年度は中国・四国・九州ブロックの代表幹事となっており、以下の事業を担当している。

#### (1) 発掘された日本列島(新発見考古資料速報展)2007

文化庁が主催する埋蔵文化財公開普及事業で、平成7年度から開催され、平成19年度で13回目を数える。本事業は、全国埋蔵文化財法人連絡協議会が文化庁から委嘱を受け、文化庁、各開催館、全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会ほか関連機関と実行委員会を組織し、運営を行っている。当センターは中国・四国・九州ブロックの集荷と返却等(表24)を担当した。この業務については平成18年度に引き続き調査課長兼企画調整班長の廣田が当たった。

表23 平成19年度会議等参加者一覧

No.	参加会議等	参加日	参加者
1	「発掘へんろ」愛媛会場展示・実行委員会	平成19年4月12・13日	廣田佳久
2	平成19年度第1回全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会 (高知市・南国市)	平成19年5月10・11日	汲田幸一・森田尚宏 戸梶友昭・廣田佳久
3	「発掘された日本列島2007」集荷 (熊本県八代市, 佐賀市, 福岡市, 松山市, 徳島県板野町)	平成19年5月21 ～25日	廣田佳久
4	平成19年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会 (さいたま市)	平成19年6月7・8日	森田尚宏・藤方正治
5	「発掘された日本列島2007」検品・展示 (東京都)	平成19年5月30日 ～6月1日	廣田佳久
6	平成19年度全埋協コンピュータ等研究委員会 中国・四国・九州ブロック会議(広島市)	平成19年9月6・7日	廣田佳久
7	平成19年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(高知市)	平成19年10月11・12日	汲田幸一・森田尚宏 戸梶友昭・廣田佳久他
8	平成19年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会 (新潟県佐渡市)	平成19年10月18・19日	森田尚宏・廣田佳久
9	「発掘された日本列島2007」徳島県立博物館 での検品と展示	平成19年11月17・18日	廣田佳久
10	平成19年度第2回全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会 (東京都)	平成19年12月13・14日	森田尚宏・廣田佳久
11	「発掘へんろ」香川会場展示・実行委員会	平成19年12月19日	廣田佳久・榊琴美
12	第2回埋蔵文化財担当職員等講習会 (姫路市)	平成20年1月10・11日	筒井三菜
13	第5回全国城郭等石垣整備シンポジウム	平成20年1月17～20日	吉成承三
14	「発掘へんろ」徳島会場展示・実行委員会	平成20年1月29日	廣田佳久
15	「発掘された日本列島2007」検品・梱包・返却 (大阪府, 徳島県板野町, 松山市, 福岡市, 熊本県八代市, 佐賀市)	平成20年2月25日 ～3月1日	廣田佳久
16	防衛省防衛研究所図書館への資料調査	平成20年6月6・7日	出原恵三
17	「発掘された日本列島2007」第2回実行委員会 (東京都)	平成20年3月10日	廣田佳久
18	「発掘へんろ」徳島会場撤収・実行委員会	平成20年3月25日	筒井三菜

### 3. その他の事業

#### (2) 埋蔵文化財法人連絡協議会名簿作成

全国埋蔵文化財法人連絡協議会の総会終了後、平成19年6月に加盟51法人に会員名簿作成依頼を行い、届いた打ち出し原稿をスキャニング、画像補正・調整後白黒データに変換した上で編集し、8月17日(金)に発注し、8月24日(金)に仕上がり、8月27日(月)から順次発送を行った。

#### (3) 平成19年度第1回全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会の開催

平成19年5月10日(木)に高知会館で監査と会議を行い、翌11日(金)に国史跡高知城跡と高知県立埋蔵文化財センターの視察を行った。

会議では、平成18年度事業報告及び収支決算、監査報告、ブロック活動状況、発掘された日本列島展などの報告、平成19年度事業計画案及び収支予算案、功労者表彰の選考等の協議が行われた。

#### (4) 平成19年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国・四国・九州ブロック会議の開催

平成19年10月11日(木)に高知会館で会議を行い、翌12日(金)に国史跡高知城跡三ノ丸の石垣改修現場と土佐市上ノ村遺跡の視察を行った。

会議は、まず管理者部会と実務担当者部会に分かれた部会協議を行った上で、全体会を行った。管理者部会では「安全衛生管理体制について」、実務担当者会議では「埋蔵文化財発掘調査における安全衛生への取組みについて」が協議され、さらにそれぞれ情報交換事項について意見交換を行った。また、実務担当者会議では、協議に先立って3本の事例発表が行われた。

表24 「平成19年度発掘された日本列島2007」集荷・展示・返却日程表

日程	集荷返却場所	所在地	集荷・返却品
平成19年5月22日	熊本県八代市教育委員会 佐賀県東名遺跡現場事務所	熊本県八代市 佐賀県佐賀市	小銅鐸、舌、免田式土器 東名遺跡出土鹿角装飾品等
平成19年5月23日	佐賀県立博物館 大野城市教育委員会 九州国立博物館	佐賀県佐賀市 福岡県大野城市 福岡県太宰府市	大友遺跡・三津永田遺跡出土貝輪 梅頭遺跡出土銀象眼鉄刀ほか イモガイ・ゴホウラ製貝輪レプリカ
平成19年5月24日	福岡市立博物館 福岡市埋蔵文化財センター	福岡県福岡市	金隅遺跡・諸岡B遺跡出土貝輪 市内出土ガラス玉等ガラス製品
平成19年5月25日	愛媛県埋蔵文化財調査センター 徳島県埋蔵文化財センター	愛媛県松山市 徳島県板野町	朝倉下経田遺跡出土銅剣とレプリカ 観音寺遺跡出土木簡等木製品ほか
平成19年5月30日 ～6月2日	東京都立江戸東京博物館	東京都墨田区	集荷品の検品と展示
平成19年11月17・18日	徳島県立博物館	徳島県板野町	展示品の検品と展示
平成20年2月24～26日	大阪府立近つ飛鳥博物館	大阪府	展示品の検品と展示
平成20年2月27日	徳島県埋蔵文化財センター	徳島県板野町	観音寺遺跡出土木簡等木製品ほか
平成20年2月28日	愛媛県埋蔵文化財調査センター	愛媛県松山市	朝倉下経田遺跡出土銅剣とレプリカ
平成20年2月29日	福岡市立博物館 福岡市埋蔵文化財センター 熊本県八代市教育委員会 佐賀県東名遺跡現場事務所 佐賀県立博物館	福岡県福岡市 熊本県八代市 佐賀県佐賀市	金隅遺跡・諸岡B遺跡出土貝輪 小銅鐸、舌、免田式土器 市内出土ガラス玉等ガラス製品 東名遺跡出土鹿角装飾品等 大友遺跡・三津永田遺跡出土貝輪
平成20年3月1日	大野城市教育委員会 九州国立博物館	福岡県大野城市 福岡県太宰府市	梅頭遺跡出土銀象眼鉄刀ほか イモガイ・ゴホウラ製貝輪レプリカ



## IV 各遺跡の発掘調査概要

### 1. 本発掘調査

#### (1) 徳王子<sup>とくおうじ ひろもと</sup>広本遺跡(07-1KH)

所在地 香南市香我美町徳王子

立地 低湿地及び丘陵地

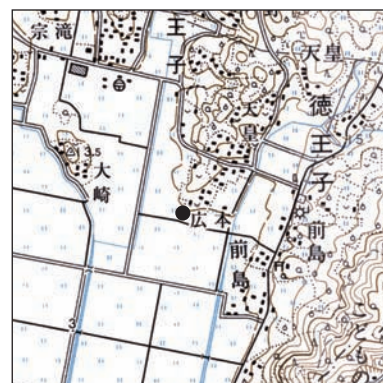
時代 弥生時代, 古代～中世

調査期間 平成19年5月7日～平成20年3月12日

調査面積 9,580㎡

担当者 井上昌紀・小川博敏

調査内容 徳王子広本遺跡の本発掘調査は、国土交通省が計画している南国安芸道路の建設に伴い、平成19年5月から平成20年3月まで実施された。



調査区全体で弥生時代及び古代や中世の遺構や遺物を確認した。岸本川左岸に広がる低湿地をⅠ区とし、その東に広がる丘陵地をⅡ区に分け調査を行なった。Ⅰ区の上面遺構は、中世の掘立柱建物跡や流路左岸を丸太杭列で保護した溝状遺構を確認した。下面で検出した遺構は土坑や5cm大～人頭大の円礫が幅約4m、北東～南西方向に約20mの範囲に分布したのを確認し、円礫部では弥生土器や石器や木製品の出土を確認した。

Ⅱ区では、弥生土器を含む土坑を1基確認したが堅穴住居跡は確認できなかった。古代の遺構は、掘立柱建物跡1棟や溝状遺構を確認した。中世の遺構は、掘立柱建物跡及びそれを囲む溝状遺構、井戸跡や上面がかすかに被熱を受け、赤色化した直方体の角礫を敷き詰めた土坑を1基確認した。今年度の調査では、弥生時代の遺構や遺物より、周辺部に集落が存在していたと考えられ、以降の時代でも集落が形成され、生産活動が行なわれていたと考えられる。また、調査区西端では、徳王子大崎遺跡の東端と予想される集石を確認した。

今回の調査は、昨年・一昨年に行われた花宴遺跡の調査と合わせ、この地域一帯の歴史が明らかになることと思われる。



写真21 Ⅱ区完掘状態



写真22 Ⅰ区下駄出土状態

## 1. 本発掘調査

### (2) <sup>にしのの</sup>西野々遺跡(07-2NN)

所在地 南国市大桶字西野々・竹中

立地 扇状地扇端部

時代 弥生時代, 古代

調査期間 平成19年4月16日～6月5日

調査面積 717㎡

担当者 小野由香・安岡猛

調査内容 平成15年度の試掘調査によって確認された遺跡で、平成16年度から発掘調査を開始し、本年度は残っていた北東部と東部端部の調査を行い、弥生時代の竪穴住居跡4軒、古代の掘立柱建物跡1棟、柵列跡、溝跡などを確認した。遺構の密度や土層の状況からいずれの時期も中心から離れた周辺部に当たるものと判断される。

これまでの調査によって弥生時代中期末から後期前半の集落跡、古代の官衙関連遺構、中世の屋敷跡などが確認され、弥生時代から中世にかけての複合遺跡であることが判明している。

弥生時代の集落跡は、遺跡中央部から東側にその中心があり、竪穴住居跡58軒を検出している。集落の規模は、東西が約300m、南北が約250mと推定され、竪穴住居跡は少なくとも100軒以上、場合によっては150軒程度あった可能性もあり、大規模集落を構成していたことが示唆される。

古代の官衙関連遺構は、柱穴の1辺が1mを越す5間×3間を中心として数多くの官衙関連とみられる建物跡が復元され、さらに南北に延びる道跡も確認されており、官衙に関連した何らかの施設が存在したことが推定される。その範囲は東西約750m、南北約250mと推定され、遺跡南東部に中心部を置き、数棟から10棟程度で構成された施設を各所に配置していたことが窺える。これらの遺構の時期は奈良時代後半から平安時代初めにかけてとみられ、古代律令制度における地方官衙の様相を解明していく上での重要な資料となっている。

西野々遺跡の発掘調査は、平成19年度で終了し、整理作業を行っており、平成19年度に『西野々遺跡Ⅰ』（平成16年度調査分）を刊行し、『西野々遺跡Ⅱ』、『西野々遺跡Ⅲ』を順次発行していく予定である。

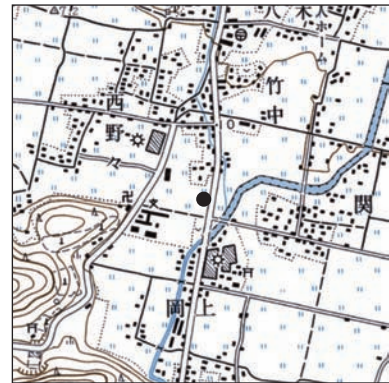


写真23 VII区遺構完掘状態



写真24 VIII区検出竪穴住居跡



## (3) 城ヶ谷山遺跡(07-3IS)

所在地 いの町大内地内鎌田

立地 仁淀川中流域平地

時代 弥生時代末～近代

調査期間 平成19年4月1日～8月31日

調査面積 1,206㎡

担当者 吉成承三・森信輔・中石忍

調査内容 城ヶ谷山遺跡は、仁淀川河口から12km程上流の右岸、いの町大内地内鎌田に所在する。東西及び南側には小高い丘陵が繋がっており、これらに囲まれた低湿地帯に位置している。仁淀川による堆積だけでなく、周囲の尾根や谷からもたらされた土砂の堆積も見られる。調査区全体が、東から西に向けて傾斜しており、南北方向は、尾根や谷の影響で、波状に堆積している。I区東からII区にかけては、掘削や盛土により、傾斜地や地山を整地した跡も見られる。現況では、調査区のほぼ全域が宅地であったために攪乱が著しかった。



調査区のすぐ北に、「ハギ原遺跡」があり、周辺には「門田遺跡」、「鎌田城跡」など、中世の遺跡がある。『長宗我部地検帳』には、「蒲田村」や「大内村」についての記載があり、現存する「字」も見られた。調査区と仁淀川の間には「鎌田用水」も流れ、先の大戦中は陸軍の駐留もあったと聞いている。

平成18年度に、高知西バイパス事業に伴う試掘調査を実施し、古代・中近世を中心とした遺構や古代を中心とする遺物が確認され、仁淀川の河川流通にかかわりのある川津としての性格を持っていたのではないかと考えられてきた。今年度の調査は、遺構、遺物が確認されたI区の山裾の部分に調査区を設定した。調査区を尾根に沿ってI・II区に分け、さらにI区を東西に分けた。

今回の調査では、弥生時代終末～古墳時代初頭の土器を始めとして試掘結果の予想を上回る数の遺物が出土し、当遺跡の成立が弥生時代にまで遡ることが明らかになった。弥生・古墳時代の遺構は確認できなかったが、弥生時代終末～古墳時代初頭のものと考えられる壺などの土器片がII区のIV層北側において出土し、既に弥生時代には人々の生活の場所となっていたことが明らかになった。

古代の遺構は調査区全体に分布しており、I区西より2条の溝跡が検出された。そのうちの1条からは、緑釉椀、土師器皿などが出土し、溝内のピットから土師器杯が出土している。これら出土遺物からこの溝は10世紀前半の遺構と考えられる。II区で検出した溝跡からは須恵器杯、土師質煮沸具など9世紀の土器が出土しており、古代の遺構は9世紀まで遡るようである。

中世では、I区西の東端で建物跡が2棟確認できた。南北方向に1間、東西方向に向けて



写真25 城ヶ谷山遺跡全景

## 1. 本発掘調査

3間、柱穴の形は円形で、径は約20cmである。2棟はほぼ同位置、同方向にあり、建替えと思われる。遺物は出土していない。また、1つの土坑に、炭化物や焼土が見られ、13世紀の土師器杯や棒状の金属、骨片とみられるものが出土しており、土坑墓の可能性が考えられる。他にも炭化物、焼土が土坑から確認された。Ⅱ区の3層は2時期に分かれ、上面からは14世紀、下面からは10世紀の遺構が検出されている。

調査区全体からの遺物は、火縄銃鉛弾、古銭、砥石、土師質紡錘車、竈の鏝、丸瓦、金属、鉄滓などの他、搬入土器としては、青磁劃花碗(龍泉窯)、青花碗、白磁の貿易陶磁器や、緑釉陶器、紀伊型土師質甕、東播系須恵器、畿内系瓦質鍋、摂津系土師質甕、瓦器(和泉型)、黒色土器A類・B類、京都系土師器皿、播磨系羽釜・甕、備前焼、肥前系陶磁器、瀬戸・美濃系陶磁器などがあり、在地産のものと思われる瓦器や、黒色土器碗A・B類、土師質火鉢などが出土している。



写真26 土師器出土状態(古墳時代)

当遺跡では建物跡などの遺構が少ないが、Ⅰ区東の西壁に径約30cm、深さ約50cmのピットが並んでおり、北西側に集落の展開が想定され、その周辺部に位置していたのではないかと考えられる。また、出土遺物からみて、貿易陶磁器を始め広域流通品があることは、この地域において、弥生時代から連綿とした生活が営まれてきたこと、交通の結節点としての機能を持った遺跡であることが明らかになった。さらに火葬、鍛冶という行為を示す跡も見つかっており、遺跡全体の場の使われ方を考える上で非常に貴重な成果を得ることができた。

城ヶ谷山遺跡は、集落のすぐ北側に仁淀川、さらに近畿、東海に繋がる太平洋(南海道)が近いという河川・海上交通に適した場所に立地している。地の利を活かし、弥生時代から現代に至るまで2000年以上もの長きに亘って生活が営まれてきたことが今回の調査によって明らかになり、これまで空白であった歴史の一部を埋めることができた。来年度以降の周辺を含めた調査により、この地域一帯の歴史がより一層明らかになることと思われる。



写真27 文様の描かれた瓦器碗



写真28 Ⅰ区西出土緑釉陶器碗



## (4) ひびのきサウジ遺跡(07-4YH)

所在地 香美市土佐山田町楠目字サウジ

立地 長岡台地上

時代 弥生時代後期末～古墳時代, 古代～近世

調査期間 平成19年5月1日～11月8日

調査面積 1,020㎡

担当者 坂本幸繁・山田耕造

調査内容 ひびのきサウジ遺跡は、高知市の東方約20kmの香美市土佐山田町に所在し、高知平野の東部を南流して太平洋に注ぐ物部川の中～下流域にあり、高知県下最大の穀倉地帯である香長平野の北端に相当する。また、物部川右岸の長岡台地と呼ばれる洪積台地上に立地しており、現在の土佐山田町市街地の東端部に位置し、調査区北東部には中世・山田氏の居城であった楠目城跡が望める。



今回の発掘調査は、高知県中央東土木事務所が計画している高知山田線の工事計画に伴うもので、調査結果から弥生時代(後期後半)～古墳時代・古代・中世の遺構や遺物などが確認された。特に中心となる時期は、弥生時代後期後半から古墳時代初頭で、溝状遺構等が検出され、多量の遺物(弥生土器片のほか、石鏃2点、ガラス玉1点、石包丁2点等)が出土した。この溝状遺構は、調査第Ⅰ区～第Ⅶ区(道路部分)～第Ⅲ区～第Ⅳ区で検出され、北東方向から南西方向へ向かい、途中南壁に区切られている。出土した弥生土器には完形のものはなく、すべてが破片であることから、何らかの要因で不要になり、投棄されたと考えられる。この溝状遺構の南側に位置するⅡ区(JA倉庫前)からは土坑が検出され、祭祀用の高杯が出土した。

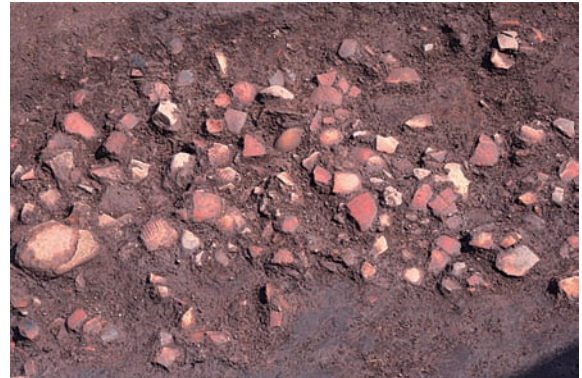


写真29 Ⅰ区SD3下層遺物出土状態

また、平成元年度に行われた遺跡周辺部の調査では、竪穴住居跡等が検出され、壺棺等が出土している。今次調査地点は平成元年度調査地点の北部周辺に位置していることから、「ひびのき弥生集落」の北限境界周辺に相当するものと考えられる。尚、調査第Ⅳ区(市民グラウンド南側)では、溝状遺構の北部(Ⅳ区北壁沿い)で、東西方向に約46mに及ぶ石列が検出された。石列の構築土中には古代・中世の遺物が混在しており、形成時期は判然としないが、他の溝状遺構からは、弥生土器のほか、須恵器、土師器、瓦質土器、青磁などが出土しており、13世紀前後ではないかとみられる。



写真30 Ⅱ区SK4遺物出土状態



## 1. 本発掘調査

### (5) 士島田遺跡(07-5NS)

所在地 南国市小籠・東崎

立地 長岡台地

時代 弥生時代～近世

調査期間 平成19年6月5日～12月7日

調査面積 7,053㎡

担当者 山本哲也・武森清幸

調査内容 国道195号道路改築工事(あけぼの道路建設)に伴い、工事予定地に所在する士島田遺跡の本発掘調査が実施された。士島田遺跡は、南国市の中央部に位置する扇状地(古物部川の堆積作用を要因とする古期扇状地で、通称は「長岡台地」)に立地する弥生時代～近世の広範囲な複合遺跡で、「祈年神社」が鎮座する独立丘陵の北側一帯の耕作地に土器片等の主要な散布が認められる遺跡として知られていた。また、平成14・18年度(06-11NS)に実施された試掘調査の成果により、遺跡の範囲はさらに東西に広がり、弥生・古代～近世の遺構等の形成が認められることが確認されていた。



本年度は、調査対象地の西側区域に該当する南国市小籠の「土佐希望の家」北側周辺部について調査が行われ、西側から順にⅠ～Ⅳ区の調査区が設定された。調査では、南北方向の市道(県道249号後免中島高知線～西祈年橋)から西側に位置するⅠ・Ⅱ区で奈良時代後半～平安時代初頭の掘立柱建物跡群、竪穴建物、溝跡、畝状遺構、近世の屋敷跡、ハンダ土坑等が検出され、古代の掘立柱建物跡群が所在することが明らかとなった。また、市道から東側の調査区であるⅢ・Ⅳ区では、近世の屋敷跡、ハンダ土坑、古代～中世の溝跡などが検出され、古代から近世にかけての農村集落の変遷を探る手掛かりが得られた。なお、Ⅰ～Ⅳ区にかけて大木の倒壊痕跡である倒木痕跡なども検出された。また、今回の調査では、弥生時代の遺構等は検出されなかった。



写真31 遺構検出状態

古代の掘立柱建物跡群は、倉庫跡とみられる総柱建物跡、二間×三間の小規模な建物跡、四方に雨落溝を持つ三間×五間の建物跡など計7棟が検出され、平面長方形を呈するカマド付きの竪穴建物跡、畝跡とみられる畝状遺構、区画溝なども併せて検出された。この建物跡群の性格としては、古代の長岡郡九郷のうち「宗部郷」の中心部を構成する建物跡(郷家)の一画である可能性が高い。なお、調査地の近隣には土佐国分寺跡や野中廃寺跡などの主要



写真32 建物跡完掘状態



写真33 調査区空中写真

な古代寺院跡や『続日本紀』慶雲三年(706)二月二十六日条に祈年幣帛を受けた神社に比定される「祈年神社」などが所在しており、土島田遺跡は、古代の主要な遺跡を往来する交通路の要所であったことも考えられる。

近世の遺構に関しては、掘立柱建物跡6棟、ハンダ土坑、土坑、溝跡、井戸跡などが検出された。なかでも1間×4間、2間×4間などの建物跡に接して、2基1組のハンダ(石灰、赤土粘土、砂利の混合土)土坑が形成されているものは、小籠遺跡で検出されている諸例に類似した施設であり、興味深い。遺構の性格や用途などについては今後の検討課題である。

今回の調査では、土島田遺跡から古代の掘立柱建物跡群、溝跡及び近世の屋敷跡などが検出され、周辺地域の歴史景観を復元する上で貴重な成果を得ることができた。土島田遺跡の調査の進展と今後の成果が期待される。



## 1. 本発掘調査

### (6) ひびのきサウジ遺跡補足調査(07-7YH)

所在地 香美市土佐山田町楠目字サウジ

立地 長岡台地上

時代 弥生時代後期後半～古墳時代, 古代～近世

調査期間 平成19年11月26日, 平成20年1月17日～2月8日

調査面積 112㎡

担当者 久家隆芳・山本哲也・松本安紀彦・山田耕造・中石忍・坂本幸繁

調査内容 この補足調査は、高知県中央東土木事務所が計画している高知山田線の工事計画に伴うものであり、本調査時の調査Ⅰ区とⅡ区・Ⅲ区間に在する南北道路下に雨水管及び側溝ボックスカルパート設置の為に、本調査Ⅴ区西隣の雨水管設置の為に行われた調査である。なお、遺構確認の為に掘削した道路部分(雨水管設置部分)をⅥ区、その調査区北側の道路部分(側溝ボックスカルパート設置部分)をⅦ区、本調査Ⅴ区の西隣部分(雨水管設置部分)をⅧ区としている。

Ⅵ区は表土から80cmの深さで検出を行い、性格不明遺構及び土坑を1基検出した。堆積層は表土から60cmの深さまでは攪乱層となっており、60～95cmまではシルト質の粘性がやや強い層となっている。この層が本調査区と同等の遺物包含層及び遺構検出面に相当すると考えられる。

Ⅶ区はTR1・TR2を設定した。TR1からは遺構を検出することができなかったが、TR2からは弥生土器の破片を多く含む溝状遺構が、道路部分(アスファルト部分)から深さ85cmで検出された。この溝状遺構は、本調査Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区で検出された溝状遺構のライン上に位置することから同様の遺構であると考えられる。堆積層はアスファルト部分から深さ85cmまでは攪乱層であり、85～120cmの間はシルト質細粒砂層である。

Ⅷ区は全調査区の西端に位置している。表土から深さ60cmでピット及び溝状遺構を検出した。検出した遺構からの土器の出土はわずかで、本調査Ⅴ区で出土した量と同程度であった。堆積層は表土直下から攪乱土・旧耕作土で遺物包含層及び遺構検出面はシルト質細粒砂層である。調査区付近に水路があることから遺構検出面付近では湧水する状態であった。

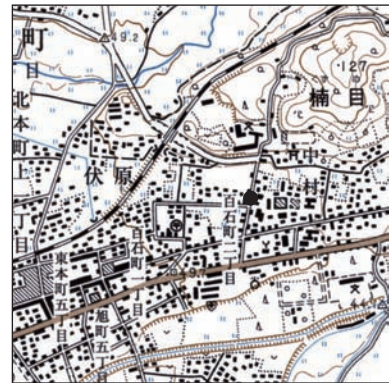


写真34 Ⅶ区TR2 SD4遺構検出状態



写真35 Ⅷ区遺構完掘状態

## (7) 上ノ村遺跡(07-8TK)

所在地 土佐市新居上ノ村

立地 山塊, 自然堤防, 氾濫原

時代 縄文時代～近代

調査期間 平成19年4月2日～平成20年3月31日

調査面積 8,220㎡(延べ16,730㎡)

担当者 出原恵三・坂本憲昭・野田秀夫・柴岡理恵

調査内容 上ノ村遺跡の調査は平成16年の開始から4年目を迎えた。これまで弥生時代中期から近世の遺構・遺物が確認されており、その内容から仁淀河川交通の要衝としての役割を果たした集落遺跡であることが明らかになりつつあるが、19年度の調査は、新たに縄文時代晩期と近代の戦争遺跡を加えることができた。



縄文時代晩期の遺物は、新居城のある城山の東斜面裾部から大量に出土した。斜面堆積によるものが多く、遺構は殆ど認められないが、一部斜面を削って作ったテラス状部分やそこに掘り込まれた溝状の凹みからは一括性の高い遺物が得られている。縄文遺物は総量でコンテナ100箱を数える。縄文土器は、極少量の後期と刻目突帯文土器を除けば、無刻突帯文土器とこれに伴うと考えられる粗製深鉢・浅鉢である。無刻突帯文土器は刻目突帯文土器との先



写真36 発掘作業風景

後関係など晩期土器編年の中ではしばしば話題にのぼる土器型式であるが、高知平野でのまとまった出土は今回が初めてである。四国西南部の中村I式や大分の上菅生B式土器に併行関係が求められるものである。しかし、今次出土例は、胴部に1～2条の沈線を有するなど細部においては異なった属性も見られ興味深いものがある。浅鉢はいわゆる黒色磨研土器でバリエーションが多く、赤彩が施されている例も見られる。この他土器では1点であるが、木葉状の浮彫りを施した榎原式土器の



写真37 土層断面



写真38 無刻突帯文土器(深鉢)



## 1. 本発掘調査

細片が出土している。搬入品であろう。

石器は、打製石鏃が最も多く60点前後、石材は金山東産サヌカイトが多く次いで地元のチャートで作られている。また剥片であるが黒曜石が10点近く出土しており、分析の結果姫島産と共に腰岳産も確認された。サヌカイトには金山産と共に二上山産が認められる。玉製品が多いのも特徴である。勾玉1点、管玉1点、小玉6点が出土している。勾玉は頭部を欠くが残存長2cm前後を測り、石材は上加世田遺跡など九州南部に多いクロム雲母岩である。管玉は長さ8mmでエンタシス状を呈し最大径4.5mm、表面は部分的に面取りをしている。

晩期の遺跡は、仁淀川に臨んだ狭隘な山裾斜面部に立地し、竪穴住居などが配されるような集落空間を求めることは難しい。遺物量は多く、しかも東西遠隔地との交流を示す遺物が出土しているのは、どのような要因によるものであろうか。今後整理作業を通して遺跡の性格の追究が求められよう。仁淀川流域は県下で最も晩期遺跡が多く分布し、上流3kmにある居徳遺跡群が最も著名で、後期から晩期末までの土器が連続と出土しているが、無刻突帯文土器は欠如している。今次資料は、高知平野における晩期社会の展開や土器編年を考える上で重要な位置を占めよう。

戦争遺跡は、城山山頂近くを南に延びる鞍部に設けられた陣地壕で、仁淀川を眼下に望む位置にある。小銃掩体を交通壕でつないだもので、主軸を南北方向にとり、確認延長22mであるが北は新しい建物によって壊されている。中央の交通壕は直線をなさずジグザグ状に掘られ、支線状に小銃掩体が4基と待避所が瘤状に3ヵ所確認される。各小銃掩体は長さ2m前後、幅80cm、深さ80cm前後を測り、南端の掩体は一部横穴状に掘っている。これらは交通壕も含めて、風化した砂岩の岩盤をツルハシとエンピで掘ったものである。規模から見て一個分隊用の陣地で、立地から仁淀川沿いに上ってくる敵を想定したものと考えられる。第二次世界大戦末期、「本土決戦」が現実問題となった1945年春以降高知平野においても米軍上陸に備えて軍隊の配備と陣地構築が進められた。四国では第55軍(偕部隊)が編成され司令部は高知に置かれた。隷下に4個師団が配備されたが、その内3個師団までが高知平野に展開しており、1945年6月現在で高知平野は全国でも最も配備密度の高い地域となっている。

仁淀川右岸は第11師団歩兵第44連隊第1大隊が展開していた。今回の陣地壕は、新居小学校に中隊本部を置いた第1中隊によって構築されたものである。同様の陣地は、西側の山腹でも確認している。周辺には他にも残存しているものと考えられる。60数年前に想定されていた本土決戦とは何であったのか。戦争の記憶が風化して行く中で、身近なところに残っている戦争の痕跡を戦争遺跡として捉え記録して行くことは有意義であろう。



写真39 小銃掩体と交通壕の完掘状態



## (8) 高知城跡(07-9KK)

所在地 高知市丸ノ内  
 立地 丘陵  
 時代 中世～近代  
 調査期間 平成19年10月3日～平成20年3月24日  
 担当者 吉成承三・森信輔  
 調査面積 420㎡

調査内容 史跡高知城跡の石垣整備事業は平成9年度に文化庁及び専門家による「高知城石垣対策専門家会議」が設置され、平成10年から11年にかけて歴史、地質、建築等の専門家による高知城の石垣全般についての総合調査が実施された。

その結果、石垣の孕みが著しい箇所について修築する基本方針が出され、平成12年度に本丸南面石垣の修築工事、発掘調査が行われ、三ノ丸については平成16年度から石垣解体・修築工事に伴う調査が行われている。平成19年度は、三ノ丸南面石垣の西半分と、鉄門の一部の石垣について解体・修築に伴う発掘調査が行われた。

今回の調査では、三ノ丸石垣全体が野面積みで積まれているのに対し、現況の鉄門石垣は打ち込みハギで構築されており、鉄門の構築時期、及び取り付け部分である南面石垣との変遷について明らかとなることが期待された。南面石垣についてはチャートが主体とする築石で野面積みで構築されており、石垣背面の排水目的の裏込め幅も極端に狭くなっており、裏の盛土が流入し目詰まりしてその結果、石垣の孕み、築石の胴割れの原因となっていたことが明らかとなった。南面石垣の盛土は蛇紋岩の風化礫を含む粘性のあるシルト層と、地山の岩盤を削った砂質礫層とが互層に堆積しており、砂質礫層は透水層としての役割を果たしている。また、盛土断面では斜度45°以上に地山をカットした切岸状の成形面が確認された。この成形面の上層は15～16世紀代の遺物を含んだ包含層が堆積しており、中世の段階に成形された切岸と考えられる。さらに、切岸成形面ではピットも検出され、埋土が透水層の役割をしている砂質土であることから、石垣構築時の盛土を整地する際の遺構とみられる。

築石についてはチャートが主体であるが、石灰岩・砂岩も比較的多くみられ、マガキ・ウネナシトマヤガイといった潮間帯に生息する貝類の付着が認められることから、文献(山内家文書)に出

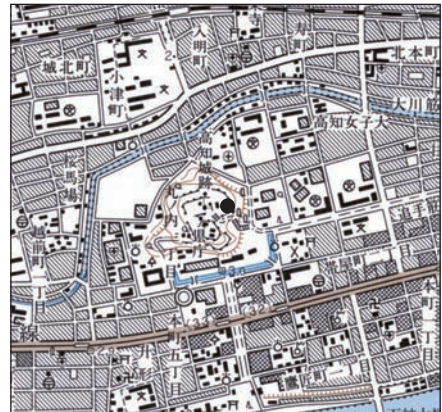


写真40 三ノ丸南面の石垣盛土断面



写真41 南面盛土で検出されたピット

## 1. 本発掘調査

てくる浦戸・東諸木・孕橋など潮間帯である浦戸湾周辺地域から切り出し、搬入された可能性が高まった。

鉄門部分の調査では、築石124石を外し、発掘調査を実施した。鉄門は三ノ丸の入口に位置し、石垣の積み方は打ち込みハギで、三ノ丸石垣全体の中でも石垣の様相が異なっていることから構築時期差があると考えられていた。文献では鉄門の構築に関する記述はなく、現況鉄門の構築時期等の詳細は不明である。調査の結果、鉄門の裏側には全て栗石が認められ、鉄門の築石加工の際にできる石材加工片も栗石として使用されている。築石は全て砂岩であり、矢穴痕を残すものが多数見られた。また、隅角部については石面を丁寧なのみ加工が施されている。のみ加工の際にできる剥片も隅角部の裏込めに集中してみられた。天端部分は盛土であり、埋土から18世紀後半頃の肥前系陶磁器が出土した。また、根石の確認調査を行った結果、現況鉄門の石垣下からチャートの根石が確認された。この根石は地山の上に置かれており一辺が0.8mを測り、設置の角度は現況鉄門石垣よりも寝かせていた。石面はのみ加工が施されており、三ノ丸南東出隅の隅角に用いられる石と同様の加工が施されている。正保年間(1644～

1646)の「正保城絵図土佐国絵図」(国立国会図書館蔵)には廊下門のような上部構造を持つ門が描かれており、検出された石垣の根石については三ノ丸創建当初の石垣遺構であると考えられる。また、現況の鉄門の改修時期については、文献では享保12年(1727)の大火の後、宝暦3年(1753)に三ノ丸が再建される記載があり、石垣の築石に被熱した跡が認められないことや、出土遺物の年代からみて宝暦年間の三ノ丸再建の際に改修された可能性が考えられる。



写真42 鉄門石垣に残る矢穴痕



写真43 鉄門石垣の根石(チャート)



写真44 修築後の三ノ丸南面石垣全景



## (9) 原遺跡(07-14KYH)

所在地 香美市土佐山田町山田

立地 扇状地

時代 弥生時代～近世

調査期間 平成19年12月17日～平成20年2月15日

調査面積 434.9㎡

担当者 松本安紀彦・山田耕造

調査内容 高知県教育委員会が計画している県立山田養護学校寄宿舎建替に伴う発掘調査で、本年度はその第一期調査である。当遺跡はこれまでのところ養護学校関連施設の建設にあたって調査が行われており、今回が三度目の調査となった。



原遺跡は物部川によって形成された扇状地に立地し、標高は約33.5mを測る。これまでの調査成果から、住居跡や柱痕など集落に関わる遺構及びそれらに伴う遺物が出土しており、それらは弥生時代にまで遡る。

今回調査を行った地点は、それまでの調査地点よりも北に位置し、遺跡の所在する河岸段丘より上位に位置する長岡台地の裾野にあたる。調査は旧寄宿舎上屋の解体工事を行った後、新寄宿舎建設予定範囲及び旧寄宿舎基礎部分の解体工事によって破壊が考えられる範囲について行った。

結果として、旧寄宿舎建設及び耕作行為等による削平によって遺跡は大きく破壊されており、良好な遺物包含層は確認できなかった。しかし、東西方向に軸を持つ柱穴群や2条の溝跡が確認された。いずれもそれより北に明確な生活行為を窺い知る遺構や出土遺物は確認できなかったため、集落の北端を示している可能性がある。柱穴群については近世に構築された可能性が高く、土地や施設の境界を示す柵としての機能があったと考えられる。また、溝の一つは中世から近世にかけて、二度掘り替えられており、当時の生活用水ないしは灌漑用水等の水資源確保のために、重要な役割を担っていた可能性が指摘できる。

集落縁辺部の様相についてはまだ不明な点が多く、今回調査した地点の近隣において類似する傾向が見つかれば、集落及びその縁辺部の歴史を紐解く機会になるだろう。



写真45 柵列と考えられる柱穴群(写真手前)



写真46 中世から近世にかけての溝跡

## 1. 本発掘調査

### (10) 伏原遺跡(07-15KF)

所在地 香美市土佐山田町伏原

立地 長岡台地上

時代 弥生時代・古墳時代・古代～近世

調査期間 平成19年12月17日～平成20年3月31日

調査面積 1,476㎡

担当者 久家隆芳・中石忍

調査内容 都市計画道路高知山田線の建設に伴い平成18年度から調査を行っている。平成18年度の調査では、弥生時代後期後半～古墳時代初頭、古墳時代後期を中心に遺構・遺物が検出されるなど多くの成果があった。特に、平面形が五角形の竪穴住居跡が検出され注目された。

今年度は昨年度の隣接地から調査を行い、来年度はさらに東へと調査を進めていく予定である。一連の調査で集落域の具体的な様相が明らかになるであろう。今年度の調査では昨年度同様、近世と弥生時代～中世の時期の二面の遺構面を確認した。さらに今年度は古代の遺構面を合わせた三面の調査を行った部分もある。

弥生時代後期末～古墳時代初頭では竪穴住居跡を多く検出した。平面形は円形、隅丸方形のものが混在している。円形の住居跡は直径約8mの大形のものが含まれている。古墳時代後期では北壁にカマドを有する竪穴住居跡を検出した。古代は柱穴等の遺構を検出しており、掘立柱建物跡が数棟存在していたものと推測できる。近世面ではハンダ土坑を中心に検出した。ハンダ土坑は平面形が円形を呈し、保水性を高めるために内側、底を三和土で固められたものである。内側には拳大の川原石を並べ、三和土を搗き固めることを繰り返し作られており、かなり丁寧で作られている。二個一対で見つかることが多いのも、この種類の遺構の特徴の一つである。

出土遺物は、弥生土器、須恵器、土師器、赤色顔料が付着した石杵、石包丁、石臼、五輪塔、青銅製の耳環、鉄鏃等が多量に出土している。検出遺構及び出土遺物の質・量から伏原遺跡は拠点的な集落跡と考えられ、当地域の歴史を明らかにするうえで重要な遺跡の一つである。

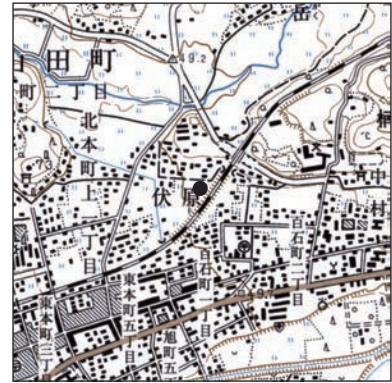


写真47 I区P38遺物出土状態



写真48 I区ST1完掘状態



## (11) 徳王子前島遺跡(07-16KTM)

所在地 香南市香我美町徳王子前島

立地 丘陵

時代 中世

調査期間 平成20年1月7日～3月13日

調査面積 1,530㎡(765㎡×2面)

担当者 島内洋二・安岡猛

調査内容 当調査地は、東西方向の谷部を棚田状にした耕作地である。平成17年度の試掘調査時には、中世のピット群や溝状遺構が確認されており、今回の調査でもその続きを検出した。

調査区全体に旧耕作土層から中世包含層までほぼ水平に堆積していた。上層からは、近世の土製玩具や陶磁器類が出土した。その下層は遺物をほとんど含まない近世の耕作土層と考えられる。さらに下層からは、中世の土師質土器や瓦器が出土し、溝状遺構(SD-1)を検出した。SD-1内からは中世の土師質土器や青磁が出土した。全体的に遺物が少なく中世の耕作土層と考えられる。これより下層は谷に沿って傾斜し、礫層と粘土層が交互に堆積している状況が確認できた。堆積層中には弥生時代後期から古墳時代初期と考えられる遺物を僅かに含む自然流路が認められた。弥生時代以降から堆積した土壌が谷を埋め、その後に耕作地として利用したようである。

一方、調査区北側の山際では、地山(橙色～青灰色の砂を多く含む固くしまったシルト質粘土層)上面で、中世と考えられるピット群を検出した。しかし、上部が谷を埋めた堆積層等により削られており、遺物は認められなかった。

今後、西側の調査を行う事によって当調査地全体の様相がさらに明らかになるものと考えられる。

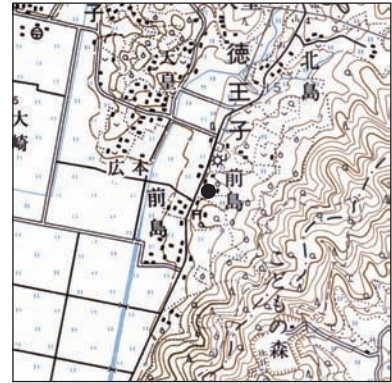


写真49 SD-1完掘状態



写真50 調査区完掘状態



## 2. 試掘調査

### 2. 試掘調査

#### (1) ひびのきサウジ遺跡(07-6YH)

所在地 香美市土佐山田町楠目字サウジ

立地 長岡台地上

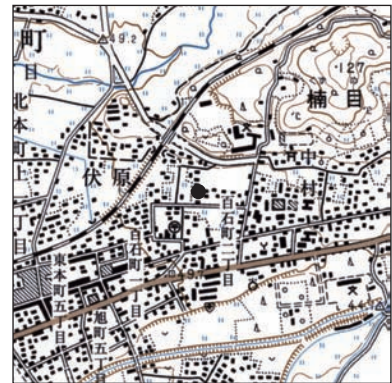
時代 弥生時代後期後半～古墳時代, 古代～近世

調査期間 平成19年7月5～6日・23～24日・8月17日

調査面積 80㎡

担当者 久家隆芳・吉成承三

調査内容 今回の試掘調査は、高知県中央東土木事務所が計画している高知山田線の工事計画に伴うものであり、TP1・2・3・4は調査Ⅳ区北側に沿って行われる側溝工事に伴う調査である。今次試掘調査は本調査と併行して行っており、調査対象地に4×4mもしくは4×5mのトレンチを5ヵ所設定して調査を行ったが、遺物が少量出土し遺物包含層と考えられる層は確認できたが、遺構は検出されなかった。これらの堆積層は、細砂混じりシルト層や粘土混じりシルト層である。地山近くまで掘り下げていくと、近くに水路があり湧水する状態であった。また、調査Ⅳ区から弥生時代の溝状遺構や石列が確認され、隣接する調査対象地外の西側にTP5を設定し調査を行った。



その結果、本調査の必要ありと判断され、新たに調査Ⅴ区を設定し本調査を行った。

#### (2) 南国市伊達野地区(07-10NIT)

所在地 南国市伊達野

立地 沖積地

時代 近世

調査期間 平成19年10月14日～10月25日

調査面積 118㎡

担当者 島内洋二

調査内容 調査対象地は、平成18年度に行われた伊達野地区(06-14NIT)試掘調査地のすぐ南側に位置する。現況は水路が縦横に走る耕作地及び山側を段々に開墾した耕作地である。対象地内に試掘坑を13ヵ所設定して調査を行った。層序は前回の試掘調査時と同様に、現耕作土の下層には僅かに遺物を含む山土起源の黄色角礫が多く混じる客土層があった。出土遺物は客土に含まれた近代～現代の陶磁器等であり、その下層からは遺構・遺物ともに認められなかった。



よって、調査対象地においては発掘調査の必要はないものと判断した。

## (3) 南国市関地区(07-11NS)

所在地 南国市大埞字関

立地 扇状地

時代 古代

調査期間 平成19年10月29日～10月30日

調査面積 27㎡

担当者 島内洋二

調査内容 当調査地は平成18年度に行われた西野々遺跡(06-2NN)発掘調査地から下田川を挟んですぐ東側に位置する。現況は調査地のすぐ西側に下田川が流れる耕作地である。調査対象地に試掘坑を3ヵ所設定して、調査を行った。調査対象地の西側に設定したTR1からは古代と考えられる溝状遺構を検出した。直上では当該期と考えられる遺物包含層を確認している。またTR2では遺構は検出できなかったが、遺物包含層と考えられるシルト層とその直下でTR1の遺構検出面に対応するとみられる黒色粘土層を確認しており、東側にも古代の遺構面が広がるものと推定される。TR3でも遺構は確認できなかったが、西野々遺跡で弥生期の遺構が検出された面と同様のオリーブ褐色シルト層を確認しており、周辺からは弥生時代と古代の遺構が検出される可能性があり、当対象地は発掘調査の必要があるものと判断した。



## (4) 芸西村長谷地区(07-12GN)

所在地 芸西村長谷

立地 扇状地

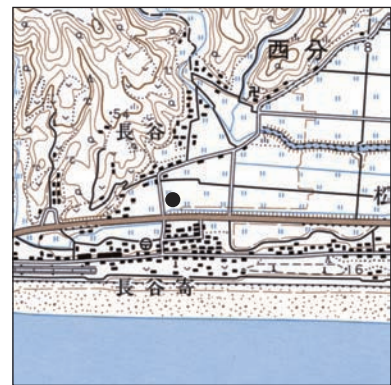
時代 中世

調査期間 平成19年11月1日～11月13日

調査面積 300㎡

担当者 島内洋二

調査内容 当調査地は国道55号線のすぐ北側に位置する。調査対象地に試掘坑(約5×5m)を12ヵ所設定して、調査を行った。現況は南北に溝が走る耕作地である。現耕作土の下層には、地山起源の黄色角礫が多く混じる客土層がある。調査区中央に設定したトレンチでは、旧耕作土下層に土壌化した粘土層が見られ、僅かながら中世の遺物が出土した。しかし、遺構は認められず、調査対象地の窪地状になった箇所流れ込んだものと考えられる。さらに下層では円礫を含む砂利層(地山)が確認でき、その下層は粘土層・礫～砂利層が互層状に堆積している。ここからは遺構・遺物ともに認められず、調査対象地においては発掘調査の必要はないものと判断した。



## 2. 試掘調査

### (5) 徳王子前島地区(07-13KTM)

所在地 香南市香我美町徳王子

立地 丘陵

時代 弥生時代～中世

調査期間 平成19年11月14日～11月30日

調査面積 161㎡

担当者 島内洋二

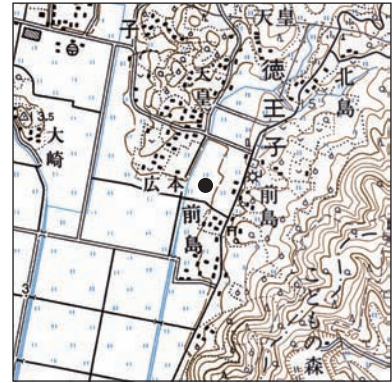
調査内容 当調査地は、農業河川のすぐ東側に位置する耕作地(西側)と県道のすぐ東側に位置する棚田状の耕作地(東側)である。状況が異なるため県道を境に西側と東側に分けて概要を報告する。

西側の調査地は、徳王子広本遺跡(07-1KH)の東側に位置する。現況はすぐ西側に南北の農業河川が流れる耕作地である。調査対象地に設定したトレンチからは弥生期と考えられる自然流路を検出した。護岸と推定される杭列や自然流路と考えられる端部を検出し、弥生時代末～古墳時代初期相当の土器片が出土した。自然流路の端部を検出したのみで、幅や明確な時期は不明であるものの、僅かであるが土器片や木製品も出土することから本調査の必要があるものと判断した。

東側の調査地は平成17年度に行われた徳王子前島地区試掘調査のすぐ東側に位置する。調査対象地に設定した各トレンチからは、旧耕作土下層より灰～黒褐色のシルト・粘土層がほぼ水平に堆積しており、流れ込みと考えられる遺物が少量出土した。その下層からは遺構・遺物ともに認められず、谷に沿って傾斜を持つ地山(緑灰色の礫層)が検出された。谷部に堆積した土壌を利用して、おそらく近・現代期に谷地を棚田状に作りかえたものと思われる。

よって、当対象地の東側に関しては本調査の必要はないものと判断した。

なお、西側の調査区については平成20年度に調査予定である。



## V 条例・規則等

### 1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

**第1条** 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

**第2条** センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

**第3条** センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

**第4条** センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

**第5条** センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。



## 1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

### (遵守事項)

**第6条** 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

### (損害賠償義務)

**第7条** 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

### (指定管理者が行う業務)

**第8条** 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

### (指定管理者の指定の申請)

**第9条** 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

### (指定管理者の指定等)

**第10条** 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。

事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

### (事業報告書の作成及び提出)

**第11条** 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に



基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

**第12条** 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

**第13条** 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

**第14条** 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

**第15条** 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

**第16条** 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

**第17条** この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

## 2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

**第1条** この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

**第2条** 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

**第3条** 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

**第4条** この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

### 3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

### 3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号)第10条第2項の規定により指定管理者の指定をしたので、同条例第14条第1号の規定により次のとおり告示する。

(平成18年3月31日教育委員会告示第8号)

#### 1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

#### 2 指定管理者となる団体の主たる事務所の所在地及び名称

高知市高須353番地2

財団法人高知県文化財団

#### 3 指定期間

平成18年4月1日から平成21年3月31日まで

#### 附則

この告示は、公布の日から施行する。



本書作成データ

ハード：Mac Pro 2×2.8GHz Quad-Core Intel Xeon , PowerMacG5/Dual2.0GHz , PowerBookPro/2.5GHz

システム：MacOS X (10.5.5)

ソフト：JeditX 2.0.4 , Microsoft Excel Mac 2008 , ProofReader 2.1.0 , Adobe Photoshop® 10.0.1 , Adobe  
Illustrator® 13.0.3 , Adobe Indesign® 5.0.4J

フォント：モリサワOTF基本7書体, Times Italic

プリンタ：DocuPrint C3540 (文書校正)

データ：すべてデジタルデータで入稿

高知県埋蔵文化財センター年報

第17号

2007年度

発行日 平成20年10月22日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原南泉 1437 - 1

TEL. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社

